

国分寺市 No.37遺跡調査概報

I

—都道17号線整備工事に伴う発掘調査—

1991年3月

国分寺市遺跡調査会
国分寺市教育委員会

序

国分寺市内には、史跡武蔵国分寺跡をはじめとして数多くの遺跡が存在しています。中には今から2万年前まで遡る先土器時代の遺跡もあり、市域が古くから人々の生活の場となっていたことが伺えます。これらの遺跡は、市内の東南部を流れる野川に沿った武蔵野台地と呼ばれる高台に多く存在し、これまでに何回か発掘調査が行われました。遺物は石器や礫が主体で、これらの研究をまとめた報告書も刊行されています。有名な遺跡として熊ノ郷遺跡、殿ヶ谷戸遺跡、多摩園坂遺跡、花沢東遺跡等があります。

本調査地は、こうした遺跡に隣接した国分寺市 No.37遺跡として登録されている地域で西恋ヶ窪3丁目に所在します。内容は、先土器時代、縄文時代、奈良・平安時代の遺物の散布地として捉えられています。

発掘調査は、平成元年と2年の2ヶ年にわたり行われましたが、府中街道と武蔵野線との間の限られた調査範囲にもかかわらず、先土器時代から歴史時代の遺構、遺物が多数検出され、特に先土器時代の遺物を多く包含していることが明らかとなりました。

ここにその調査成果を報告書として公にする運びとなりましたことは、一重に調査団長をはじめとする調査団各位のご尽力の賜物であります。

本報告書が広く埋蔵文化財の保護普及に役立つと共に、調査により得られた資料が学術資料として活用されれば幸いです。

最後に、調査の主旨を理解され多大なご協力とご援助をいただいた東京都建設局北多摩北部建設事務所の関係各位、ならびに多くの方々へ厚く御礼申しあげるしだいであります。

平成3年3月20日

調査会長 星野亮勝

例 言

1. 本書は、国分寺都市計画道路2・2・11号線（主要地方道所沢府中線第17号）、府中街道の整備工事に伴う発掘調査報告書である。
2. 本調査は、東京都北多摩北部建設事務所から国分寺市遺跡調査会に委託されたものである。
3. 発掘調査は平成元年12月27日から平成2年3月20日、平成2年5月23日から同年12月3日まで行い、整理および報告書作成は平成3年3月20日まで国分寺市遺跡調査会惣ヶ窪事務所で行った。
4. 調査は上村昌男が専従した。
5. 本書の執筆・編集は、滝口宏、永峯光一、大川清、坂詰秀一の監修のもとに上村昌男、上敷領久、板倉歓之の各調査員が分担した。執筆分担は下記のとおりである。
 - 上村昌男 I、II-(1) (2)、III、IV-(3)
 - 上敷領久 IV-(1)、V、VI
 - 板倉歓之 IV-(2)
6. 発掘調査から報告書作成に至る過程で、次の方々から御教示、御協力をいただいた。（敬称略、順不同）

有吉重蔵、福田信夫、広瀬昭弘、早川泉、河内公夫、中村宣弘、品田圭二
7. 発掘および整理参加者（敬称略、五十音順）
 - 発掘作業
岩崎洋、太田立也、小池和彦、中田一夫、畑山豊、藤崎努、松澤修
 - 整理作業
井村みゆき、大城戸玲子、大羽正子、岡島チヅエ、加藤はす、木村初江、島崎恵美子、須崎幸子、外谷悦子、千葉則子、内藤眞由美、楢岡ゆう子、野村美智子、長谷川光子、原田瑞枝、東清子、深瀬恵津子、村山資子、森安敦子、山岸加寿子

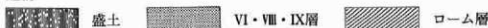
凡 例

1. 遺構は、各遺構毎の発見順に連続番号を付し、下記の遺構番号を冠して表記する。本文中においては、「SD1溝跡」の様に記述する。

SD 溝跡・溝状遺構、SK 土坑、ピット 小穴、ユニット 石器礫集中地点

2. 各トレンチの遺構配置図に表示した数字は国家座標第9系をもちいて距離を表わしている。X軸が南北ライン、Y軸が東西ラインを表わす。断面図表示の数字は水系レベルで、海拔高を示す。
3. スクリーントーンの指示は次のとおりである。

遺構



遺物



4. 遺物分布図に於ける記号(●▲)の指示は各図面に表記してある。
5. 写真図版のうち出土遺物は、図面の番号と対照にした。例えば「10-1」とあれば、「図面10-1」を指す。
6. 遺構図面、遺物図面は次の縮尺に統一した。
各トレンチ1/200、土坑・溝1/40、断面図1/40、遺物分布図1/80、遺物実測図1/1・1/2
7. 遺物図版は次の縮尺に統一した。
石器・礫1/1、石器の一部1/3

本文目次

序	
例言	
凡例	
I 調査に至る経過	1
II 調査地区の概観	6
1. 調査地区の位置・立地	6
2. 層序	6
III 発掘経過	9
IV 検出遺構	12
(1) 先土器時代	12
(2) 縄文時代	13
(3) 歴史時代	14
V 出土遺物	17
VI 小結	23
参考文献	24

挿図目次

- 第1図 遺跡の位置 (1/25000)
- 第2図 調査地位置図 (1/2500)
- 第3図 標準土層図 (1/20)

表 目 次

- 第1表 調査工程表
第2表 調査工程表
第3表 出土遺物一覧表 Aトレンチ・Bトレンチ
第4表 出土遺物一覧表 Cトレンチ・Dトレンチ・Eトレンチ
第5表 出土遺物一覧表 Eトレンチ・Fトレンチ
第6表 出土遺物一覧表 Fトレンチ

図 面 目 次

- 図面1 Aトレンチ先土器・縄文・歴史時代全体図
図面2 B・C・Dトレンチ先土器・縄文・歴史時代全体図
図面3 E・Fトレンチ先土器・縄文時代全体図
図面4 Fトレンチユニット1・2 礫石器分布図
図面5 Fトレンチユニット2 焼跡接合図
図面6 A・Dトレンチ先土器・縄文時代土坑平面図
図面7 Cトレンチ歴史時代溝跡・土坑全体図
図面8 Bトレンチ歴史時代溝跡平面図
図面9 Aトレンチ先土器時代出土遺物
図面10 Aトレンチ先土器時代出土遺物
図面11 A・Bトレンチ先土器時代出土遺物
図面12 B・Cトレンチ先土器時代出土遺物
図面13 Dトレンチ先土器時代出土遺物
図面14 Dトレンチ先土器時代出土遺物
図面15 D・E・Fトレンチ先土器時代出土遺物
図面16 Fトレンチ先土器時代出土遺物
図面17 Fトレンチ先土器時代出土遺物
図面18 Fトレンチ先土器時代出土遺物
図面19 Fトレンチ先土器時代出土遺物

図 版 目 次

- 図版 1 調査地区近景
1. 調査地区近景 (北から)
 2. 調査地区近景 (南から)
 3. 調査地区近景 (東から)
- 図版 2 発掘状況・先土器時代調査トレンチ
1. 発掘作業風景
 2. 発掘作業風景
 3. Aトレンチ先土器時代遺物出土状態 (南から)
- 図版 3 先土器時代調査トレンチ
1. Dトレンチ先土器時代遺物出土状態 (東から)
 2. E₂トレンチ先土器時代遺物出土状態 (南から)
 3. E₃トレンチ先土器時代遺物出土状態 (北から)
- 図版 4 先土器時代調査トレンチ
1. Fトレンチ先土器時代ユニット1全景 (西から)
 2. Fトレンチ先土器時代ユニット2全景 (南から)
 3. Fトレンチ先土器時代ユニット2全景 (北から)
- 図版 5 先土器時代調査トレンチ
1. Dトレンチ先土器時代SK5土坑全景 (南から)
 2. Dトレンチ先土器時代SK5土坑東西土層面 (南から)
 3. Dトレンチ先土器時代SK6土坑全景 (南から)
- 図版 6 先土器時代・縄文時代調査トレンチ
1. Dトレンチ先土器時代炭化物集中地点
 2. Aトレンチ縄文時代全景 (南から)
 3. Aトレンチ縄文時代SK3土坑全景 (東から)
- 図版 7 縄文時代土坑
1. Aトレンチ縄文時代SK3土坑東西土層断面 (北から)
 2. Aトレンチ縄文時代SK2土坑全景 (北から)

3. Aトレンチ縄文時代SK2土坑東西土層断面（北から）
- 図版8 縄文時代調査トレンチ・土坑
1. Aトレンチ縄文時代SK1土坑全景（東から）
 2. Aトレンチ縄文時代SK1土坑東西土層断面（北から）
 3. E₂トレンチ縄文時代全景（北から）
- 図版9 縄文時代・歴史時代調査トレンチ
1. Fトレンチ縄文時代全景（南から）
 2. Bトレンチ歴史時代SD4・5・6・7溝跡全景（北から）
 3. Bトレンチ歴史時代SD4溝跡南北土層断面（東から）
- 図版10 歴史時代溝跡
1. Bトレンチ歴史時代SD5溝跡南北土層断面（東から）
 2. Cトレンチ歴史時代SD6溝跡南北土層断面（東から）
 3. Bトレンチ歴史時代SD7溝跡南北土層断面（東から）
- 図版11 歴史時代溝跡
1. Cトレンチ歴史時代SD1・2・3溝跡・SK7土坑全景
（南から）
 2. Cトレンチ歴史時代SD1溝跡・SK7土坑全景
東西土層断面（南から）
 3. Cトレンチ歴史時代SD3溝跡東西土層断面（南から）
- 図版12 Aトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版13 A・Bトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版14 B・C・Dトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版15 Dトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版16 D・E・Fトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版17 Fトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版18 Fトレンチ先土器時代出土遺物
- 図版19 Fトレンチ先土器時代出土遺物

I 調査に至る経過

昭和63年12月27日付国教文取第551号にて東京都北多摩北部建設事務所（以下北々建）より国分寺都市計画道路2・2・11号線（通称府中街道）の整備工事を施行したい旨の届出が市教委文化財課に提出された。

工事区域は国分寺市 No.37遺跡の範囲に該当するため、試掘調査を実施することで北々建と協議を行なった結果以下の内容で合意した。

- ①試掘調査は遺跡内で工事範囲の内の約30%を対象とし、3箇所にてトレンチを設定して実施する。
- ②試掘は歴史時代・縄文時代・先土器時代の3時期について調査を行う。
- ③試掘調査で遺構・遺物が多数検出された場合は、これらの遺構・遺物の発掘記録作業を行い、未調査部分について再度本調査計画書を作成し追加調査を行う。
- ④試掘調査で遺構・遺物が検出されない場合、あるいは少量検出された場合は、これらの発掘記録作業を行い終了とする。

試掘調査は平成元年12月27日に開始し、平成2年3月20日終了した。結果は3箇所設定したトレンチより歴史時代・縄文時代・先土器時代の遺構・遺物が多数検出されたため、工事範囲の中で残り部分について本調査を行うことで協議を行い、平成2年5月23日より本調査に着手した。尚これら一連の調査を国分寺市 No.37遺跡の3次調査(K37-3)として登録されている。

国分寺市遺跡調査会組織（平成3年3月現在）

—役員および監事—

会 長	星 野 亮 勝	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	滝 口 宏	東京都文化財保護審議会会長
理 事	永 峯 光 一	東京都文化財保護審議会委員
〃	坂 詰 秀 一	〃
〃	大 川 清	国士館大学教授
〃	本 多 良 雄	国分寺市長
〃	内 野 孝 治	国分寺市教育委員会委員長
〃	高 橋 俊 司	国分寺市教育委員会教育長

I 調査に至る経過

〃	星野亮雅	国分寺市社会教育委員会議長
〃	藤間恭助	国分寺市文化財保護審議会委員
〃	木多寅太郎	〃
〃	吉田格	〃
〃	松井新一	〃
〃	北沢俊	東京都教育庁社会教育部文化課副参事
〃	関隆成	国分寺市教育委員会社会教育部長
監 事	榎戸潔	国分寺市社会教育委員会副議長
〃	市橋三郎	東京都教育庁社会教育部文化課埋蔵文化財係長

— 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 —

委員長	滝口宏	(考古)
委員	永峯光一	(〃)
〃	坂詰秀一	(〃)
〃	大川清	(〃)
〃	宮本救	(古代史)
〃	金丸義一	(建築史)
〃	未定	(仏教史)
〃	〃	(古環境)
〃	〃	(保存科学)

— 事務局 —

事務局長	野口武夫	国分寺市教育委員会文化財課長
事務局員	宇都宮精一	国分寺市教育委員会文化財課庶務係長
〃	鈴木晃	国分寺市教育委員会文化財課庶務係員
〃	松澤修	国分寺市遺跡調査会

— 調査団 —

調査団長	滝口宏	東京都文化財保護審議会会長
主任調査員	有吉重蔵	国分寺市教育委員会文化財課文化財保護係長
調査員	福田信夫	国分寺市教育委員会文化財課文化財保護係員
〃	上村昌男	〃
〃	上敷領久	〃

I 調査に至る経過

〃 滝島和子

〃

嘱託遺跡調査員

〃 板倉敏之

〃

〃



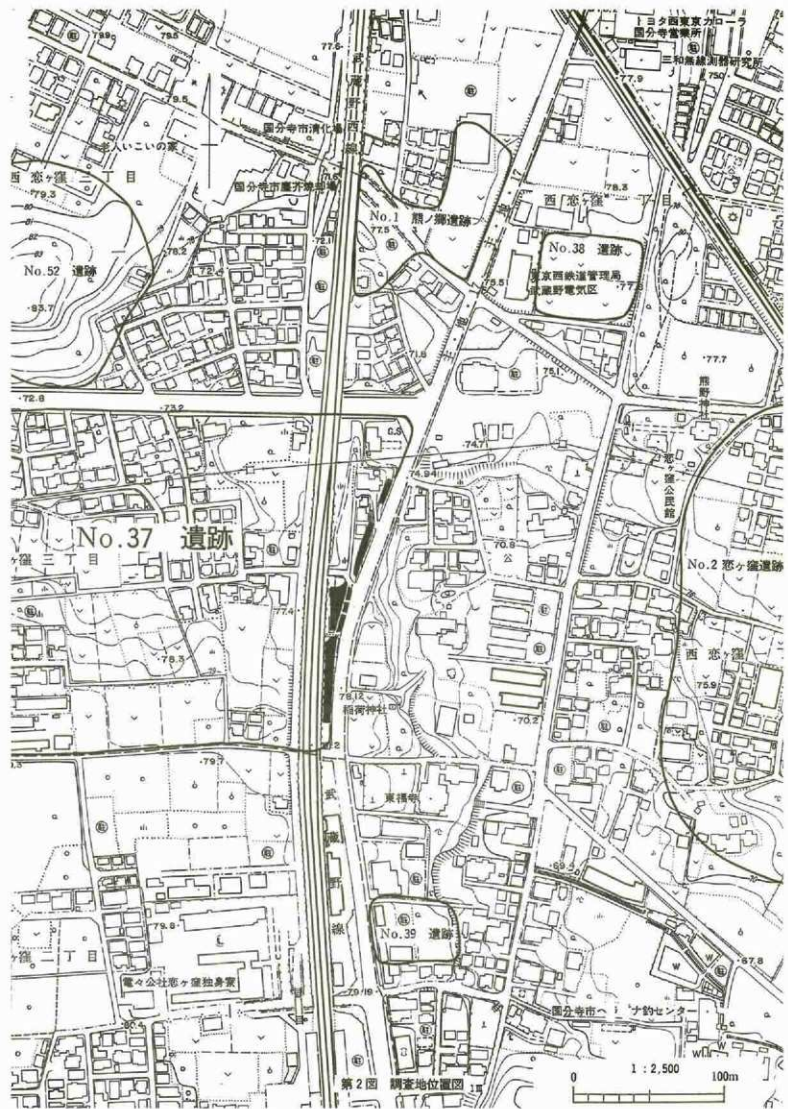
調査位置

小平市

府

500m 0 1,000 1,500
1 : 25,000

第1図 遺跡の位置



第2図 調査地位位置図

1 : 2,500
0 100m

II 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

国分寺市 No.37遺跡は西恋ヶ窪3丁目に所在し、分布調査などにより先土器時代、縄文時代、奈良・平安時代の遺物が散布している地域として登録されているが、その内容は明らかではなかった。

既往の調査において本遺跡内では2地点の発掘調査を行っている。その内、本調査地の北側で市道2・2・8号線の工事に伴う発掘調査において先土器時代の石器、礫、炭化物が検出され、本遺跡が先土器時代の遺物を包蔵している遺跡であることが推察されていた。

次に周辺地域の遺跡の状況について説明する。本遺跡の東側、恋ヶ窪谷をはさんだ対岸には恋ヶ窪遺跡があり縄文時代中期、勝坂期から加曾利E期の集落に係る遺構が多数検出されており、その他、先土器時代の遺物や歴史時代の遺構が発見されている。また北側の谷をはさんだ対岸には、先土器時代の遺跡として有名な熊ノ郷遺跡^(註1)があり、数回の発掘調査が行われ、ハードルーム層中より礫群や石器の集中部分が検出されている。

今回の調査は恋ヶ窪谷の西側台地上に位置し、本遺跡の東側に南北方向のトレンチを設定し発掘調査を行うこととなった。このことより当遺跡の先土器時代や縄文時代の遺構、遺物についての分布範囲がより明確になると考えられる。

(註1) 吉田格 1952「武蔵野台地の縄文時代以前の遺跡と遺物、東京都熊ノ郷・殿ヶ谷戸遺跡」

2. 層 序

No.37遺跡は武蔵野段丘の縁辺に位置し、基本層序はAトレンチ、Eトレンチ、Dトレンチの深掘り土層断面を使用した。

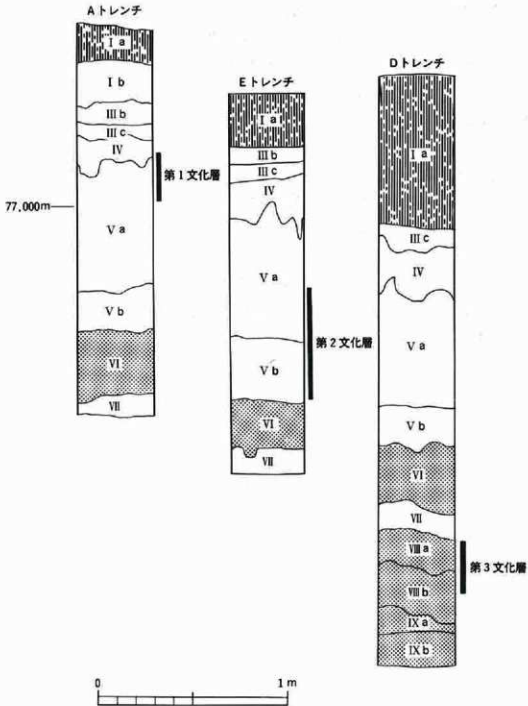
- I a 層 盛土。 調査地が道路の周辺であるため、南側で20cm北側で80cmの範囲で検出される。
- I b 層 表土耕作土。 暗褐色で乾燥するとバサバサして崩れる。下部はII層の黒褐色土がまじる部分がある。…(Aトレンチのみ検出)
- III b 層 暗茶褐色土。 下部に行くほど茶褐色が強くなる。縄文時代の遺構はこの層の下部より検出された。
- III c 層 茶褐色土。 ローム漸移層約10cmの範囲で検出される。
- IV 層 黄褐色土。 ソフトローム層、先土器時代の遺物が下部よりV a 層にかけて出土しており第1文化層とした。

II 調査地の概観

- V a 層 黄褐色土。 ハードローム層、色調とスコリア粒子の相違によりV層はa、bの2層に分けられる。aは、細かいスコリア粒子を含み、中位より先土器時代の遺物が検出される。
- V b 層 暗黄褐色土。 ハードローム層、V a層にくらべスコリア粒子が大粒になる。先土器時代の遺物もこの層からの出土点数が多く第2文化層とした。
- VI 層 黄暗黒褐色土。 立川ローム層の第1黒色帯に該当する。黒色スコリア粒子が多く含まれる。
- VII 層 黄褐色土。 灰白褐色土ブロックを多く含み削るとジャリジャリするが、始良丹沢火山灰(AT層)に該当する層と考えられる。
- VIII a 層 黄暗黒灰褐色土。立川ローム層の第2黒色帯の上部に該当する層である。本層中より先土器時代の遺物が検出され第3文化層とした。
- VIII b 層 暗黒黄褐色土。 VIII a層よりさらに黒色味を帯びる。
- IX a 層 黒暗黄褐色土。 暗灰褐色土のブロックが全体に散らばっている層である。
- IX b 層 黒暗茶褐色土。 立川ローム層の第2黒色帯の下部に該当する層である。

以上のような土層が観察され、これら各層より遺構、遺物が検出された。傾向としては北へ傾斜して土層が堆積している様子である。

II 調査地の概観



第3図 標準土層図

Ⅲ. 発掘経過

国分寺都市計画2・2・11号線整備に伴う試掘調査地は、国分寺市西窓ヶ窪3丁目721～4、725、644、647、648番地に位置し、道路整備内容で埋蔵文化財に影響ある部分について事前にA、B、Cトレンチを設定し、平成元年度に調査を行った。その結果、各々のトレンチより歴史時代の溝跡や土坑、縄文時代の土坑やピット、先土器時代の遺物が集中する地点が確認された。これら遺構、遺物については、同年に本調査を行い記録作業を終了した。

試掘調査において遺構、遺物が多数検出されたため、平成2年度は、遺跡内の工事対象地域の内で残り部分について、D、E、Fトレンチを設定し本調査を行った。検出された遺構は縄文時代のピットが多数と、先土器時代の石器、礫が集中した部分（ユニット）があり、記録作業を行った。

以下各年度の調査経過の概略を記することとする。

平成元年度試掘調査

試掘調査期間 平成元年12月27日から平成2年3月20日 実働日数54日

試掘調査面積 Aトレンチ 歴史時代276m² 縄文時代276m² 先土器時代82m²
Bトレンチ 歴史時代30.6m² 縄文時代30.6m² 先土器時代11.5m²
Cトレンチ 3時代とおして53m²

発見遺構 歴史時代 溝跡 7条 土坑 1基
縄文時代 土坑 3基 ピット 51個
先土器時代 文化層 2面

平成2年度本調査

本調査期間 平成2年5月23日～同年12月3日 実働日数108日

本調査面積 Dトレンチ 歴史時代63.4m² 縄文時代63.4m² 先土器時代54.2m²
Eトレンチ 3時代とおして77.1m²
Fトレンチ 歴史時代217m² 縄文時代217m² 先土器時代117m²

発見遺構 縄文時代 土坑 1基 ピット 83個
先土器時代 ユニット 2基 土坑 2基

各々調査トレンチの進行状況について第1、2表にまとめてあるので参照されたい。

第1表 調査工程表

種別	平成元年 12月		平成9年 1月		平成9年 2月		平成9年 3月	
	10	20	10	20	10	20	10	20
準備工		A						
表土除去			A	C B	B			
削			A	C	B			
造構確認 (歴史時代)			A	C C	C			
歴史時代 遺構調査 (写真、実測)					C-B C C	C B		
縄文時代 包土調査 (写真、実測)			A A C C	B				
遺構確認 (縄文時代)			A A C C	B				
歴史時代 遺構調査 (写真、実測)			A A B A C B A	A				
縄文時代 包土調査前				A A A A A A A A				
地上部時代調査 (写真、実測)				A A A A A A A A				
地上部時代調査 (写真、実測)				A A A A A A A A				
調査地区埋戻し								
備考		調査箇所	埋戻し 調査箇所	削 調査箇所	削 調査箇所			調査箇所

IV. 検出遺構

(1) 先土器時代

先土器時代の調査はAトレンチ(82㎡)、Bトレンチ(11.5㎡)、Cトレンチ(53㎡)、Dトレンチ(54.2㎡)、Eトレンチ(77.1㎡)、Fトレンチ(117㎡)について行い、調査総面積は394.8㎡である。これらの調査地点の中でA、D、Fトレンチについて石器の集中が認められた。特にFトレンチについてはユニットが2箇所検出され、Dトレンチにおいては、浅い皿状の土坑が2基検出された。

基本的な文化層は、IV～V層間にナイフ形石器を主体とした第1文化層、V～VI層間(第1黒色帯)にナイフ形石器を主体とした第2文化層、VIII層(第II黒色帯)中に石刃状剥片を主体とした第3文化層が確認された。

ユニット1(図面3 図版4)

Fトレンチの南側に位置し出土層位はVI層下面からVa層上面にて検出された。ユニットの規模は分布の範囲約4～5mで厚さ0.6mを測り、集中範囲は直径1.8mの円形を呈する。組成は主に刃部調整剥片・石核調整剥片・石核であり、ナイフ形石器を1点含む。

ユニット2(図面3 図版4)

Fトレンチの中央で、ユニット1の北側3mに位置する。出土層位はVa層～Vb層で、特にVb層の下面に集中して礫、石器が検出された。ユニットの規模は分布範囲が東西約6m、南北約10mで厚さ1.5mを測り、集中範囲は直径4.0mの楕円形を呈する。組成は主にナイフ形石器・小形の石刃状剥片・石核である。さらに細石刃が1点検出された。なおユニット2内には被熱を受け破碎した礫が多数検出され、炭化物もまじって発見された。

SK5土坑(図面6 図版5)

Dトレンチ北側に所在し、確認された層位はVII層面である。長径1.8m、短径0.64m、深さ26cmを測り、舟形を呈するものである。底面は平坦で、壁は南側がなだらかに立ち上がり、その他は垂直ぎみに立ち上がる。覆土は2層に分層され黄暗黒褐色土でスコリア粒子が含まれ少量炭化物がまじる。なお本土坑の上層であるVII層中には炭化物の分布が認められた。

SK6土坑(図面6 図版5)

IV. 検出遺構

Dトレンチ北側に所在し、SK5の南に隣接する。確認された層位はⅦ層面で、規模は長径1.37m、短径1.0m、深さ27cmを測る。平面形は楕円形を呈し、底面に径0.2mのピットを有し、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は、上下の2層に分層され黄暗褐色土でスコリア粒子が含まれる。遺物は剥片や礫が包含されているが、Dトレンチで検出されている石器集中地点との関連は認められなかった。

Aトレンチ石器集中地点(図面1 図版2)

Aトレンチの北側に位置し、集中密度はユニットとして把握できるほどでないがⅤ層上面に尖頭器・掻器・鎌・台形石器と石核や剥片を主体とする石器群が東西方向に認められた。

Dトレンチ石器集中地点(図面2 図版3)

Dトレンチ内の石器集中地点は、Dトレンチ南に位置し、集中密度は、ユニットとして把握されるほど高い密度ではないがⅣ～Ⅴ層間にナイフ形石器を僅かに含み、石核と短い石刃状剥片を主体とした石器群が北、東方向に広がっている。さらにⅧ層(第Ⅱ黒色帯)中には碎片に混じって長い石刃状剥片が2点検出されている。Dトレンチ内の二枚の文化層から出土した石刃状剥片は、剥離技術に明確な違いが認められた。

(2) 縄文時代

縄文時代の調査は、A～Fトレンチのすべてにおいて実施され、その調査面積は717.1m²である。これらのうち、A・Dトレンチにおいて土坑が4基、また各トレンチにおいて多数のピットが検出された。

SK1土坑(図面6 図版8)

Aトレンチ中央西側に位置し、東にSK2が近接する。長径1.2m、短径1.1m、深さ27.8cmを測り、円形を呈するものである。底面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は、上層の暗茶褐色土(1・2層)と下層の茶褐色土(3層)とに分けられ、ほぼ自然堆積の様相を呈している。

SK2土坑(図面6 図版7)

Aトレンチ中央部に位置し、西にSK1、東にSK3が近接する。長径1.5m、短径1.2m、深さ97.5cmを測り、上面は不整形円形、底面は長楕円形を呈する。底面に2基のピットを有し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層の暗茶褐色土(1～3層)と壁の崩落土と考えられ

IV. 検出遺構

る黄茶褐色土(4層)、そして下層の暗茶褐色土(5層)とに大きく分けられ、ほぼ自然堆積の様相を呈している。この土坑は、その形状からいわゆる落し穴土坑と考えられるものである。

SK3土坑(図面6 図版6・7)

Aトレンチ中央東側に位置し、西にSK2が近接する。長径1.4m、短径1.1m、深さ98.5cmを測り、上面は不整円形、底面は長方形を呈する。底面に3基のピットを有し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、上層の暗茶褐色土(1・2層)と中層の暗黒茶褐色土(3層)、そしてロームブロックを含む下層(4・5層)とに大きく分けられ、ほぼ自然堆積の様相を呈している。この土坑もSK2同様、いわゆる落し穴土坑と考えられるものである。

SK4土坑(図面6)

Dトレンチ中央部に位置する。長径1.3m、短径0.8m、深さ26.8cmを測り、不整円形を呈するものである。底面は平坦で、壁はなだらかに立ち上がる。覆土は、上層の暗茶褐色土(1・2層)と下層の黄暗褐色土(3層)とに分けられ、ほぼ自然堆積の様相を呈している。

ピット(図面1・2・3 図版6・8・9)

各トレンチにおいて検出されている。断面の形状は、大きく①U字型②ツボ型③半円型の3種類に分類される。また規模は、直径が0.2~0.9m、深さ0.1~0.5mを測る。これらのピットは、その配列からみて、住居跡等の遺構に関係するものではないと思われる。

(3) 歴史時代

歴史時代の調査は、A~Fトレンチのすべてにおいて実施し、その調査面積は717.1m²である。これらの内、B・Cトレンチにおいて溝跡7条と、土坑1基が検出された。

SD1溝跡(図面7 図版11)

Cトレンチの北側に所在する南北溝跡で、発掘基準線のX-33144.0m、Y-32906.5mよりX-33152.2m、Y-32906.2mの地点までの範囲で延長8.9mが検出された。溝と基準線南北方向はほぼ平行する。規模は上面幅0.8m、底面幅0.34mで確認面からの深さ62cmを測る。断面形は逆台形を呈し、上面部分がやや開く形状である。底面はほぼ平坦であるが一部分小穴がある。溝跡内の準堆土層は、上層が暗褐色土層で、底面近くが暗黒褐色土層が充填されている。SK7土坑と重複しており本溝が新しい。

IV. 検出遺構

SD 2 溝跡 (図面 7 図版11)

Cトレンチの北側でSD 1の西側に平行して所在する南北溝跡で、発掘基準線のX-33148.6m、Y-32908.2mよりX-33153.0m、Y-32907.9mの地点までの範囲に延長4.8mが検出された。基準線南北方向に対し6度30分西偏する。規模は上面幅0.3m、底面幅0.1mで確認面からの深さ25cmを測る。断面の形状はU字を呈する。溝跡内の堆積土層は、暗茶褐色土層で茶褐色土ブロックが含まれる。

SD 3 溝跡 (図面 7 図版11)

Cトレンチの北側でSD 1の東側に平行して所在する南北溝跡で、発掘基準線のX-33142.5m、Y-32905.1mよりX-33147.6m、Y-32905.2mの地点までの範囲で延長5.6mが検出された。基準線南北方向に対し3度東偏する。規模は上層幅0.4m、底面幅0.1mで深さ20cmを測る。断面の形状は皿状を呈し、底面には、径6～10cmの浅いくぼみがある。溝跡内の堆積土層は単一で暗褐色土層で茶褐色土ブロックがまじる。

SD 4 溝跡 (図面 8 図版 9)

Bトレンチ中央に所在する東西溝跡で、発掘基準線のX-33181.8m、Y-32919.8mよりはじまり、東側のX-33182.2m、Y-32918.1mまでを確認し延長2.1mが検出された。基準線の東西方向に対し6度南偏する。規模は上面幅1.16m底面幅0.52mで確認面からの深さ29cmを測る。断面形は弓状を呈し、底面は凹凸がはげしく、はじまり部分には小穴が認められる。溝跡内の堆積土層は暗茶褐色土で茶褐色土ブロックが多く含まれる土層である。

SD 5 溝跡 (図面 8 図版 9・10)

Bトレンチの中央に所在し、SD 4の北側に位置する東西溝跡で、発掘基準線のX-33180.0m、Y-32920.2mよりX-33179.9m、Y-32916.9mの地点までの範囲で延長3.2mが検出された。溝と基準線の東西方向はほぼ平行する。規模は上面幅1.05m、底面幅0.24mで、確認面からの深さ57cmを測る。断面は逆台形を呈し、上面部分はラッパ状に開く形状である。底面はほぼ平坦で小穴等は認められない。堆積土層は上層が暗褐色土で底面に近くなるにつれて黒色土粒子を多く含む土層が充填される。

SD 6 溝跡 (図面 8 図版 9・10)

Bトレンチの中央に所在し、SD 5のすぐ北側に位置する東西溝跡で、発掘基準線のX-33178.9m、Y-32919.8mからX-33179.0m、Y-32916.6mの地点までの範囲で延長3.16mが検

IV. 検出遺構

出された。溝と基準線の東西方向はほぼ平行する。規模は上面幅0.9m、底面幅0.34m、確認面からの深さ48cmを測る。断面は逆台形を呈する形状である。底面はほぼ平坦で、一部分に径10cmの小穴がある。堆積土層は上部は暗褐色土で下層は黒色土粒子を多く含む土層が認められる。

SD7溝跡(図面8 図版9・10)

Bトレンチの中央でSD4とSD6の中間に所在する東西溝跡で、発掘基準線のX-33180.9m、Y-32918.1mよりはじまりX-33180.9m、Y-32919.8mの地点までの範囲で延長1.7mが検出された。発掘基準線の東西方向にほぼ平行する溝跡である。規模は上面幅0.36m、底面幅0.3mで確認面からの深さ14cmを測る。断面は逆台形を呈し、底面には、径15cmの小穴がある。堆積土層は暗褐色土で茶褐色土ブロックが多く含まれる土層である。

SK7土坑(図面7 図版11)

Cトレンチの北側に所在し、SD1と重複しておりSK7が古い。規模は長径1.48m、短径1.3mで、深さ46cmを測る。平面形は長円形を呈し、断面はU字形である。堆積土層は暗茶褐色土が上面で、下面に近くなるにつれて茶褐色土ブロックが多く含まれる土層が充填される。

これら各々の遺構から遺物は出土していないが、遺構内の堆積土層に黒褐色土や黒色土粒子が含まれることより歴史時代の遺構と判断した。

V. 出土遺物

本調査により出土した遺物は先土器時代の石器、礫などで総量はコンテナ4.5箱である。遺物の詳細については一覧表に記した。遺物を大別すると、ナイフ形石器・尖頭器・剥片類・石核・その他の剥片石器・礫石器であり、それぞれ遺物についての特徴について以下に記す。

なお、各石器群の分類の基準は、本遺跡で出土した遺物についてのみ便宜上分類したものである。以下各々の分類を記述する。

1類 ナイフ形石器

第1・2文化層の主体となる石器である。素材となる剥片によって、2種目に細分される。

- 1 黒曜石を石材とし、縦長剥片を素材とした杉久保型ナイフ形石器、第1文化層に多い。
 - 2 安山岩を石材とし、横長剥片を素材とした国府型系のナイフ形石器、第2文化層に多い。
- 1類2は、ユニット2で2点出土した。

2類 尖頭器

第1文化層中に出土する。いずれも黒曜石を石材とし、横長剥片を素材とした両面加工尖頭器である。

3類 剥片類

剥片類は、1石刃状剥片、2調整剥片、3細石刃に分類した。

- 1 石刃状剥片は剥片の形態と大きさで3つに細分した。
 - a 長さ2～3cm、幅0.5cm前後、厚さ0.4cm。側面に打点を持つ黒曜石の横長剥片。
Fトレンチ第1文化層で主体となる。
 - b 長さ3.2～3.8cm、幅1.1～2.1cm、厚さ0.4cm。片面に1～2本の稜を持つ安山岩の縦長剥片。
Dトレンチ第2文化層で主体となる。
 - c 長さ6cm前後、幅2cm前後、厚さ1cm前後。片面に自然面が1本の稜を持つ安山岩の縦長剥片。
Dトレンチ第3文化層で主体となる。
- 2 調整剥片は剥片の形態と調整痕によって3つに細分した。
 - a 縦長・横長剥片の一部に微調整が施され、刃部が認められる刃部調整剥片。
各文化層に認められる。
 - b 不定形の剥片の一部に微調整が施され、刃部が認められる刃部調整剥片。
各文化層に認められる。

V. 出土遺物

- c 片面は短い不定方向からの剥離痕があり他面には主剥離面のみを残し、石核の打面再調整の際に剥離された打面調整剥片。
各文化層に認められるがFトレンチ第2文化層に多い。
- 3 細石刃はFトレンチのユニット2で1点のみ出土したが、関連する細石核は出土していない。
- 4類 石核は形態と剥離方向によって3つに細分された。
- 1 形態は球形、円錐形に近く剥離方向は不定方向である。
 - 2 形態は角錐形に近く剥離方向は縦方向で、縦長剥片を剥離する。
 - 3 形態は菱形に近く剥離方向は横方向で、横長剥片を剥離する。
- 5類 剥片石器類には、撻器・錐・台形石器が出土した。
- 6類 礫石器は片刃打製石斧・磨石が出土したがいずれも組成の中では少量である。
- 7類 楔形石器は剥片を素材とし、平行する何対かの潰れ（両極打法）の多い直線的・凹形の刃によって形成された四角形あるいは多角形の石器である。
- 8類 小剥片、碎片。

第3表 出土遺物一覧表 Aトレンチ・Bトレンチ

Aトレンチ										
図面	図版	器種	分期	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
9-1	12	石刀状削片	3-1, a	IV	チャート	1.55	1.7	2.5	0.6	縦長削片の基部折断
9-2	12	尖頭鏃	2	V	砂岩	3.3	1.5	0.6	2.5	横長削片を素材 先端部と基部を欠損
9-3	12	鏃	5	V上部	チャート	2.9	2.9	1.0	8.1	刃部一部欠損
9-4	12	鏃	5	V上部	チャート	4.45	1.95	1.1	9.1	
9-5	12	台形石鏃	5	V上部	チャート	2.3	2.45	0.65	2.9	二側縁を折り取り
9-6	12	石刀状削片	3-1, a	V上部	緑泥頁岩	4.15	1.2	0.7	1.5	平削断面
9-7	12	石刀状削片	3-1, a	V	黒曜石	4.3	2.05	0.6	4.3	片面欠損
9-8	12	刃部調整削片	3-2, a	V上部	チャート	2.35	2.2	0.7	2.5	基部欠損
9-9	12	刃部調整削片	3-2, b	V上部	チャート	3.5	2.5	0.5	3.0	横長削片を素材
10-1	12	刃部調整削片	3-2, b	V上部	黒曜石	2.8	1.8	5.5	2.0	縦長削片を素材
10-2	12	刃部調整削片	3-2, a	V上部	黒曜石	3.1	2.5	0.5	2.7	縦長削片を素材
10-3	12	打面調整削片	3-2, c	V上部	黒曜石	3.7	2.1	1.3	5.0	打面除去、おじれた縦長削片
10-4	12	打面調整削片	3-2, c	V上部	黒曜石	3.05	1.65	0.7	2.3	
10-5	12	打面調整削片	3-2, c	V上部	安山岩	5.2	2.6	0.8	4.3	
10-6	12	打面調整削片	3-2, c	V上部	チャート	1.7	2.3	0.6	1.7	
10-7	12	削片	8	V上部	チャート	2.1	2.3	0.7	2.0	
10-8	13	石核	4-3	V	砂岩	5.1	2.2	1.0	9.5	四側縁に自然面
10-9	13	石核	4-2	V上部	チャート	4.2	2.95	1.2	12.6	
11-1	13	石核	4-3	V上部	黒曜石	5.3	2.75	1.8	15.6	
11-2	13	打割石片	6	V上部	砂岩	8.05	5.05	2.2	83.5	片面調整
Bトレンチ										
図面	図版	器種	分期	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
11-3	13	石刀状削片	3-1, a	V	安山岩	2.95	3.3	1.2	11.1	平削打面で基部折断
11-4	13	石刀状削片	3-1, a	V	硬質砂岩	7.3	2.9	1.3	27.3	平削打面
12-1	13	石核	4-3	V	安山岩	61.5	4.1	1.5	22.1	
12-2	13	石核	4-3	V	安山岩	4.7	3.0	1.3	15.3	横長削片削離
12-3	14	片刃石鏃	6	V	粘板岩	9.0	5.4	4.6	237.6	

第4表 出土遺物一覧表 Cトレンチ・Dトレンチ・Eトレンチ

Cトレンチ										
図面	図取	器種	分期	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
12-4	14	鏃	5	IV	黒曜石	3.0	2.46	0.7	4.5	
Dトレンチ										
図面	図取	器種	分期	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
13-1	14	ナイフ形石器	1-1	V	黒曜石	3.5	1.5	0.8	3.3	
13-2	14	尖頭器	2	V	チャート	5.0	2.5	1.1	8.0	横長割片を素材、未製品?
13-3	14	石刃状割片	3-1, b	V	安山岩	3.2	1.1	0.4	1.9	
13-4	14	石刃状割片	3-1, b	V	安山岩	3.9	1.8	0.6	3.5	
13-5	14	石刃状割片	3-1, b	V	安山岩	3.0	1.36	0.4	1.5	
13-6	14	石刃状割片	3-1, b	V	安山岩	3.8	2.1	0.8	9.5	
13-7	14	石刃状割片	3-1, a	V	黒曜石	3.0	2.3	0.7	4.0	
13-8	14	石刃状割片	3-1, b	V	安山岩	4.2	2.25	0.9	8.5	
13-9	14	石刃状割片	3-2, a	V	安山岩	4.6	1.95	1.0	3.4	
13-10	14	打面調整割片	3-2, c	V	安山岩	4.1	1.9	0.6	3.4	自然面を持つ
13-11	14	打面調整割片	3-2, c	V	安山岩	3.95	1.1	0.6	1.8	自然面を持つ
14-1	14	石 槌	4-1	V	安山岩	3.5	2.1	0.75	4.0	
14-2	15	打面調整割片	3-2, c	VI	黒曜石	4.4	3.5	0.9	9.0	
14-3	15	石 槌	4-3	V	黒曜石	3.95	2.0	1.0	5.8	
14-4	15	石 槌	4-3	V	チャート	5.7	3.35	2.8	41.5	
14-5	15	石 槌	4-3	V	安山岩	7.5	4.8	3.9	87.1	整合
14-6	15	石 槌	4-3	VI	粘板岩	7.0	5.85	-	177.5	
14-7	15	石 槌 割 片	4-1	V	粘板岩	9.0	6.0	6.0	300.0	整合
15-1	16	石刃状割片	3-1, c	VI VII	安山岩	5.7	1.9	0.7	4.8	
15-2	16	石刃状割片	3-1, c	SK 6, Ⅷ	安山岩	6.75	2.1	1.0	12.1	
Eトレンチ										
図面	図取	器種	分期	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
15-3	16	ナイフ形石器	1-1	VI	黒曜石	1.7	1.5	0.5	1.0	基部
15-4	16	ナイフ形石器	1-1	VI	チャート	3.4	1.5	0.9	4.2	

第5表 出土遺物一覧表 Eトレンチ・Fトレンチ

Eトレンチ										
図面	図版	器種	分類	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
15-5	16	縦長削片	3-2、a	VI	黒曜石	2.45	1.5	0.4	0.9	
Fトレンチ										
図面	図版	器種	分類	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
15-6	16	尖頭器	2	ユ2、IV	黒曜石	2.75	1.55	0.6	2.4	縦長削片を素材
15-7	16	尖頭器	2	ユ2、IV	黒曜石	3.45	1.95	0.65	3.0	基部欠損、石鏃?
15-8	16	楔形石器	7	ユ1、IV	黒曜石	1.55	1.15	0.55	0.8	
16-1	16	刃部調整削片	3-2、b	ユ2、IV下部	黒曜石	1.9	1.25	0.4	0.6	縦長削片を素材
16-2	16	刃部調整削片	3-2、b	ユ1、IV下部	チャート	3.5	2.4	0.65	4.2	縦長削片を素材
16-3	16	横長削片	3-2、b	ユ2、IV	粘板岩	2.8	3.5	0.7	5.2	
16-4	16	刃部調整削片	3-2、b	ユ1、IV	黒曜石	3.2	4.4	0.7	6.9	横長削片を素材
16-5	16	打面調整削片	3-2、c	ユ1、IV	チャート	2.15	2.35	0.65	1.9	
16-6	16	打面調整削片	3-2、c	ユ1、IV	チャート	1.85	1.85	0.6	1.5	
16-7	16	砕片	8	ユ1、IV	黒曜石	2.55	2.2	0.55	2.3	
16-8	16	石核	4-2	ユ1、IV	チャート	3.3	1.9	1.5	6.8	
16-9	17	石核	4-1	ユ1、IV下部	チャート	3.9	2.9	2.6	24.7	
17-1	17	磨石	6	ユ1、IV	砂岩	14.4	9.0	5.3	775.0	
17-2	17	細石刃	3-3、3	ユ2、V*	黒曜石	2.15	0.65	0.3	0.2	
17-3	17	ナイフ形石器	1-1	ユ2、V*上部	チャート	1.3	1.35	0.35	0.55	基部?
17-4	17	ナイフ形石器	1-1	ユ2、V*上部	黒曜石	2.1	1.6	0.7	2.0	基部
17-5	17	ナイフ形石器	1-1	ユ2、V*	黒曜石	4.7	0.7	1.55	2.4	上下両面の片側の縁に指痕状刻線
17-6	17	ナイフ形石器	1-1	ユ2、V*	安山岩	4.8	1.45	0.6	2.8	
17-7	17	ナイフ形石器	1-2	ユ2、V*下部	安山岩	4.6	1.1	0.7	2.1	
17-8	17	ナイフ形石器	1-2	ユ2、V*上部	安山岩	3.5	1.2	0.45	1.8	
17-9	17	鏃	5	ユ2、V*	黒曜石	2.2	1.3	0.5	1.4	
17-10	17	楔形石器	7	ユ2、V*下部	チャート	1.7	2.3	1.1	3.2	
18-1	17	石刃状削片	3-2、a	ユ2、V*上部	黒曜石	3.75	2.65	0.9	6.4	縦長削片を素材
18-2	17	石刃状削片	3-2、a	ユ2、V*下部	安山岩	3.55	2.25	0.5	4.7	

第6表 出土遺物一覧表 Fトレンチ

Fトレンチ										
図面	図取	器種	分類	出土位置	石質	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
18-3	17	石刀状削片	3-2、a	≒2、Va下部	黒曜石	0.85	3.6	0.45	0.8	横長削片を素材
18-4	17	石刀状削片	3-2、a	≒2、Va	黒曜石	2.9	1.75	0.6	1.5	
18-5	17	刃部調整削片	3-2、b	≒2、Va	黒曜石	2.1	1.65	0.35	1.1	
18-6	17	刃部調整削片	3-2、b	≒2、Va下部	黒曜石	2.1	1.3	0.75	1.5	
18-7	18	刃部調整削片	3-2、a	≒2、Vb	黒曜石	3.9	1.0	0.4	0.6	縦長削片を素材
18-8	18	刃部調整削片	3-2、a	≒2、Vb	黒曜石	1.0	2.2	0.4	0.9	横長削片を素材
18-9	18	刃部調整削片	3-2、a	≒2、Vb	黒曜石	2.3	1.15	0.45	0.8	縦長削片を素材
18-10	18	削片	3-2、b	≒1、Va上部	チャート	5.1	2.9	0.75	6.2	
18-11	18	打面調整削片	3-2、c	≒2、Va下部	黒曜石	3.15	3.1	0.7	3.6	
19-1	18	削片	8	≒2、Vb	安山岩	4.2	2.5	1.4	13.7	自然面を有す
19-2	18	砕片	8	≒2、Va下部	黒曜石	2.8	1.5	0.9	1.8	
19-3	18	砕片	8	≒2、Vb	黒曜石	1.85	1.1	0.65	0.9	
19-4	18	砕片	8	≒2、Vb	黒曜石	1.6	1.15	0.6	0.9	
19-5	18	石核	4-2	≒1、Va上部	チャート	2.8	3.1	2.15	13.9	
19-6	18	石核	4-3	≒1、Va上部	黒曜石	4.5	6.35	1.5	32.3	横長削片制礫石核
19-7	18	石核	4-3	≒1、Va上部	チャート	3.7	2.9	2.6	26.9	
20-1	18	石核	4-2	≒2、Va	チャート	4.2	3.15	2.4	32.7	横長削片制礫
20-2	19	石核	4-3	≒2、Vb	黒曜石	4.0	3.25	1.6	16.0	
20-3	19	磨石	6	≒2、Va下部	砂岩	7.9	5.8	2.1	132.0	

VI 小 結

本遺跡では先土器時代、縄文時代、歴史時代の遺構、遺物が検出され出土したが、主体となるのは先土器時代である。ここでは、本遺跡での文化層の内容と、周辺遺跡との関連による遺跡立地の問題について述べる。

1. 文化層の内容

遺物の出土層と組成によって3つの文化層を設定した。これを、武蔵野台地における文化期⁽¹⁰⁾と対応させると第1・2文化層はナイフ形石器・両面加工の尖頭器中心の組成から、ほぼ第II b・III文化期に相当する。さらに、これまで国分寺市域においては第III文化期の特徴的な石器である細石刃と細石核は明確な出土状況が認められなかったが、ユニット2においてV層（ハードローム層）中より細石刃が出土した。しかしながら、1点のみであり細石核が伴わないため石器組成として認められるかは、今後の周辺調査の増加を待たねばならない。第3文化層からは比較的長い石刃状剥片と石核が出土しているが、ナイフ形石器や尖頭器といった製品は出土していない。

第2文化層における剥片の形態の違いについて観察すると、同一の文化層であるDトレンチと、Fトレンチのユニット2の剥片は、前者は3-1 b類（長さ3.2~3.8cm、幅1.1~2.1cm、厚さ0.4cm。片面に1~2本の稜を持つ安山岩の縦長剥片）が主体で、後者が3-2 b類（不定形の剥片の一部に微調整が施され、刃部が認められる刃部調整剥片）が主体となっている。これは、剥片剥離技術の違いが、そのまま石器製作者集団の違いを反映しているかどうかに係わってくる問題であるが、本調査においては、同一文化層中に異なる剥片剥離技術によって剥離された石刃状剥片群が存在していたことについてのみ指摘しておく。

2. 周辺遺跡との関連

本調査区の北、窓ヶ窪谷を挟んだ北側台地上には、熊ノ郷遺跡が位置する。熊ノ郷遺跡の主体となる文化期はII a 亜期⁽¹¹⁾に属しており、本調査区より一段階古い遺跡である。また北西部のほぼ同一斜面にあたる都市計画道路228号線の露頭からは、本調査区と類似した石器群が採集されて⁽¹²⁾、その中には細石刃状の小形石刃状剥片が検出されている。さらに、東側の小支谷を挟んだ台地上に位置する窓ヶ窪遺跡において主体となる石器群の文化期はIV期に属する⁽¹³⁾。現状で把握できる遺跡の立地と文化期は、熊ノ郷遺跡や窓ヶ窪遺跡のように窓ヶ窪谷の北側には、II a 亜期とIV期といった比較的古い文化期と新しい文化期の遺跡があり、窓ヶ窪谷の西側においては、III期の遺跡が広がる傾向にあると言える。

以上の観察から、窓ヶ窪谷を挟んだ武蔵野台地には、II a 亜期~IV期にかけての遺跡が点

在し、縄文時代、歴史時代の遺構の存否にかかわらず先土器時代の遺構・遺物が検出される可能性が高いことが明らかとなった。今後この地域における先土器時代の遺跡群としての性格究明が重要な課題となるであろう。

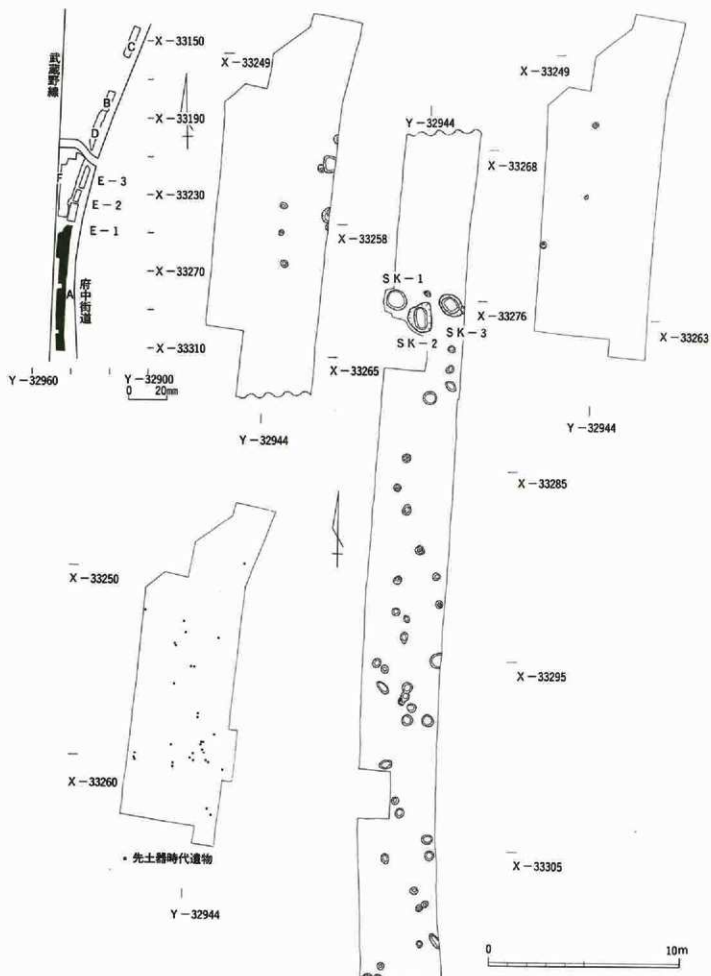
- (註1) 小田静夫 1980年武蔵野大地に於ける先土器時代の文化層について7期に細分し編年をおこなった。
『講演録 武蔵野台地に於ける先土器時代』『神奈川考古第8号ナイフ形石器文化終末期の問題(II)』
- (註2) 実川順一 1986年熊ノ郷遺跡出土の先土器時代遺物について分類を行い武蔵野台地の文化期II a 亜期に対比させた。『国分寺市内における先土器時代の様相図』『国分寺市史 上巻』
- (註3) 広瀬昭弘 1978年市道2・2・8号線遺築において先土器時代の遺物が検出され文化層3枚が確認された。
- (註4) 実川順一 1986年恋ヶ窪遺跡第15次調査出土の先土器時代遺物の分類を行い武蔵野台地の文化期IV期に対比させた。『国分寺市内における先土器時代の様相図』『国分寺市史 上巻』

参考文献

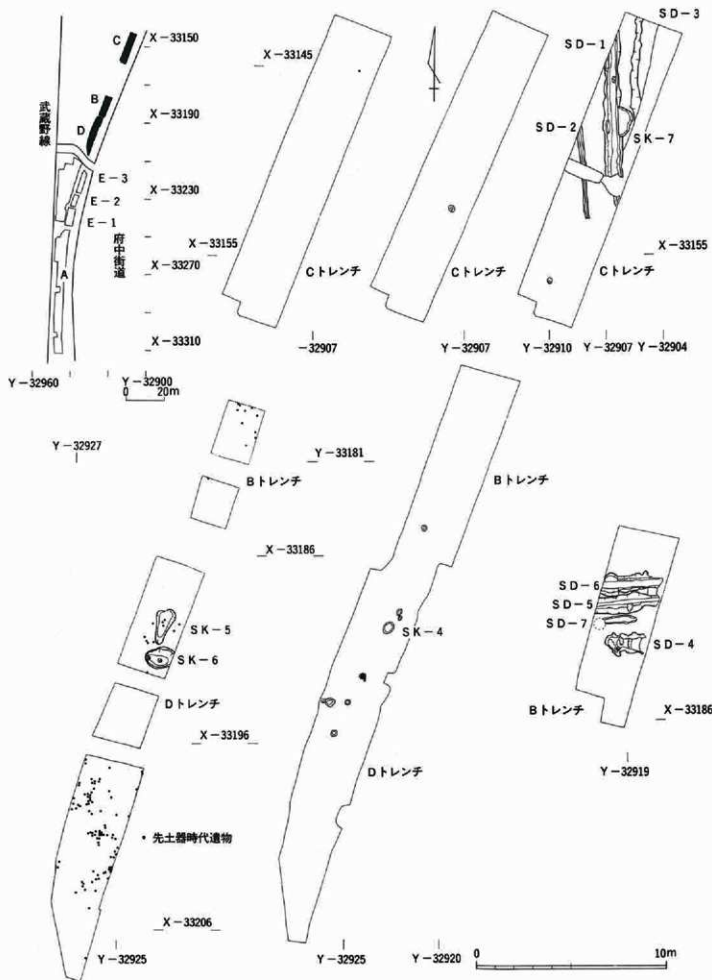
- オ 小田静夫 1980『ナイフ形石器文化終末期の問題(II)』神奈川考古第8号
- コ 恋ヶ窪遺跡調査団 1979, 1980, 1982『恋ヶ窪遺跡調査報告I・II・III』
恋ヶ窪遺跡調査団 1984『花沢東遺跡』都営国分寺南町三丁目団地建設に伴う調査
国分寺市遺跡調査会 1988『恋ヶ窪遺跡調査報告IV』
小林達雄 小田静夫 羽島雄三 鈴木正男 1971『野川先土器時代遺跡の研究』第四紀研究10巻4号
- シ 実川順一 1987『恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報I』
- タ 竹岡俊樹 1989『石器研究法』
- チ 永峯光一 他 1980『多摩川坂遺跡』
永峯光一 実川順一 1986『国分寺市史 上巻』第一章先土器時代
- ツ 武蔵国分寺遺跡調査団 1982『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報VII』
武蔵国分寺遺跡調査団 1985『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報VIII』
- テ 吉田格 1952『東京都国分寺熊ノ郷・殿ヶ谷戸遺跡』考古学雑誌38-2

圖 面

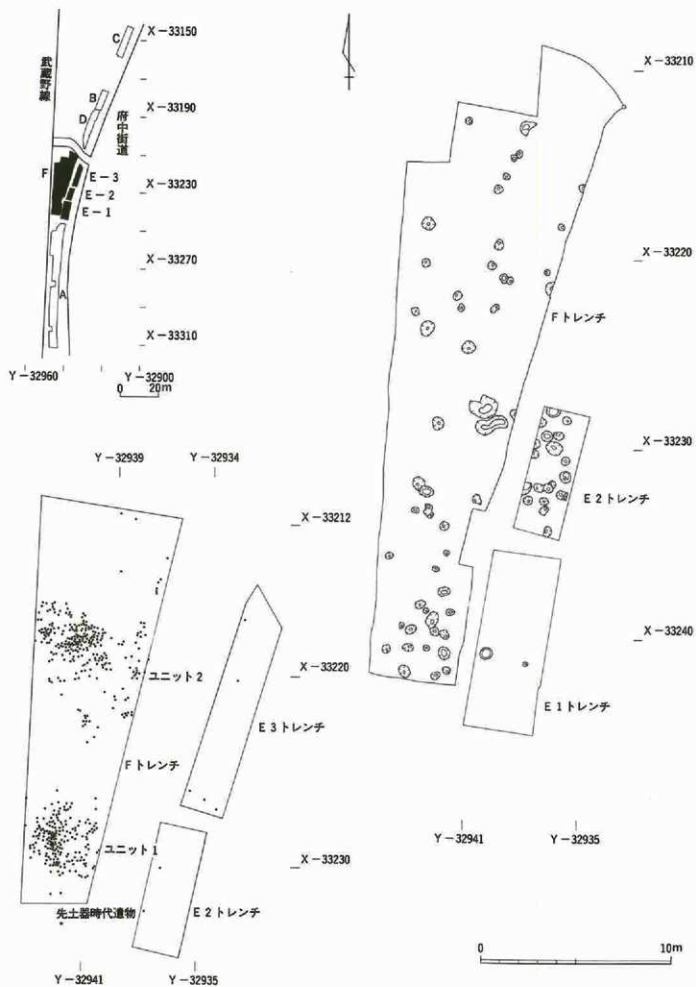
図面1 Aトレンチ先土器・縄文・歴史時代全体図



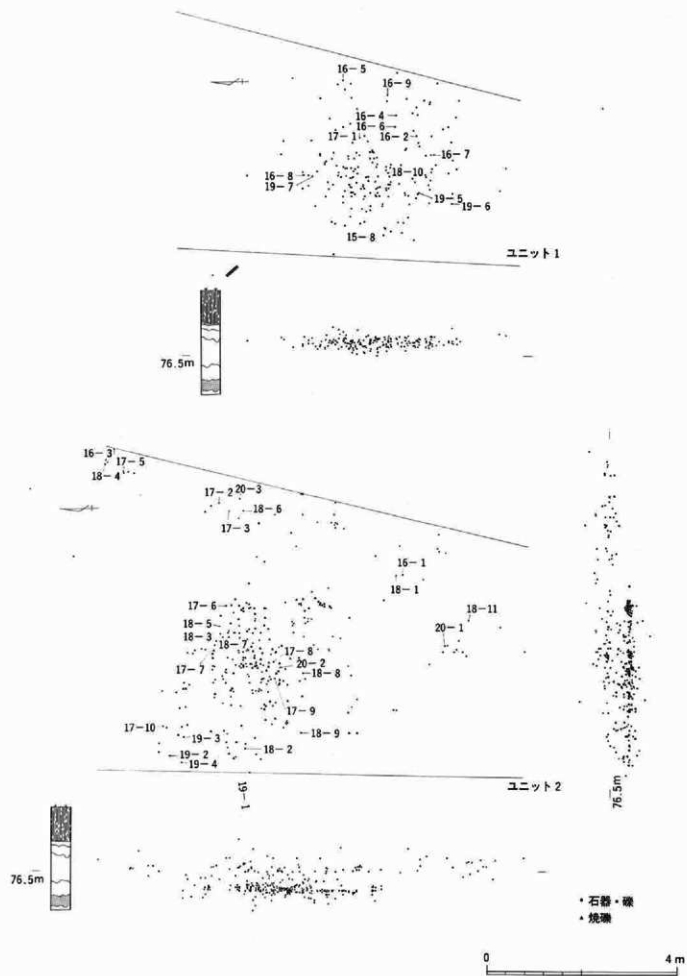
図面2 B・C・Dトレンチ先土器・縄文・歴史時代全体図



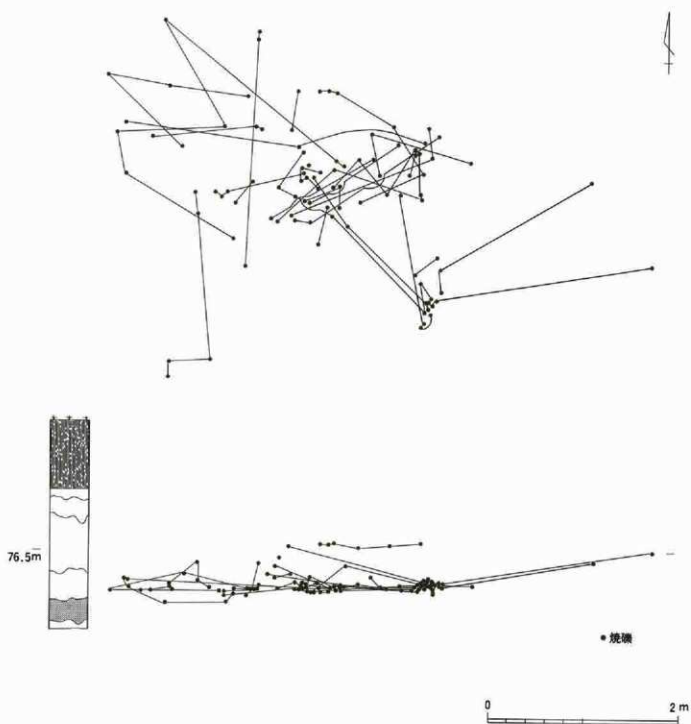
図面3 E・Fトレンチ先土器・縄文時代全体図



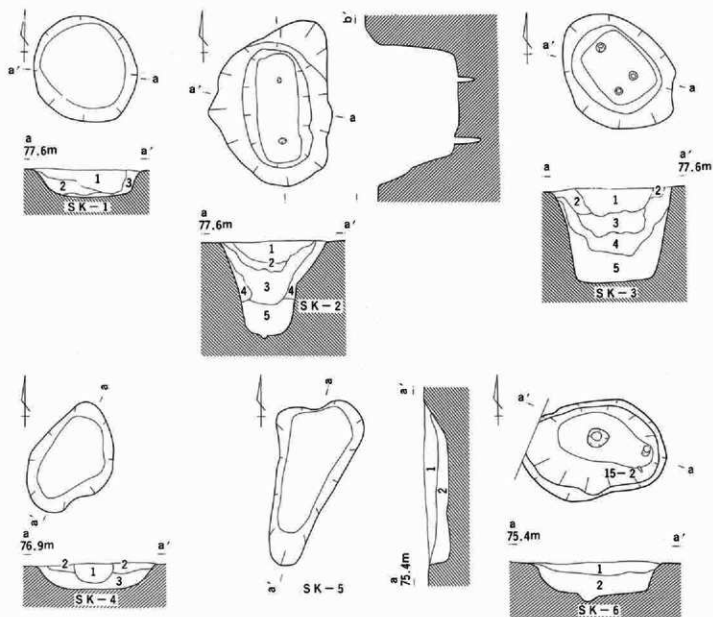
図面4 Fトレンチユニット1・2 礫石器分布図



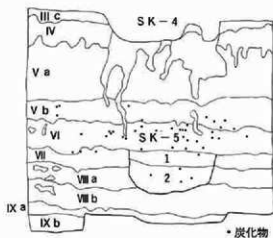
図面5 Fトレンチユニット2 焼燼接合図



図面6 A・Dトレンチ先土器・縄文時代土坑平面図



77.1m



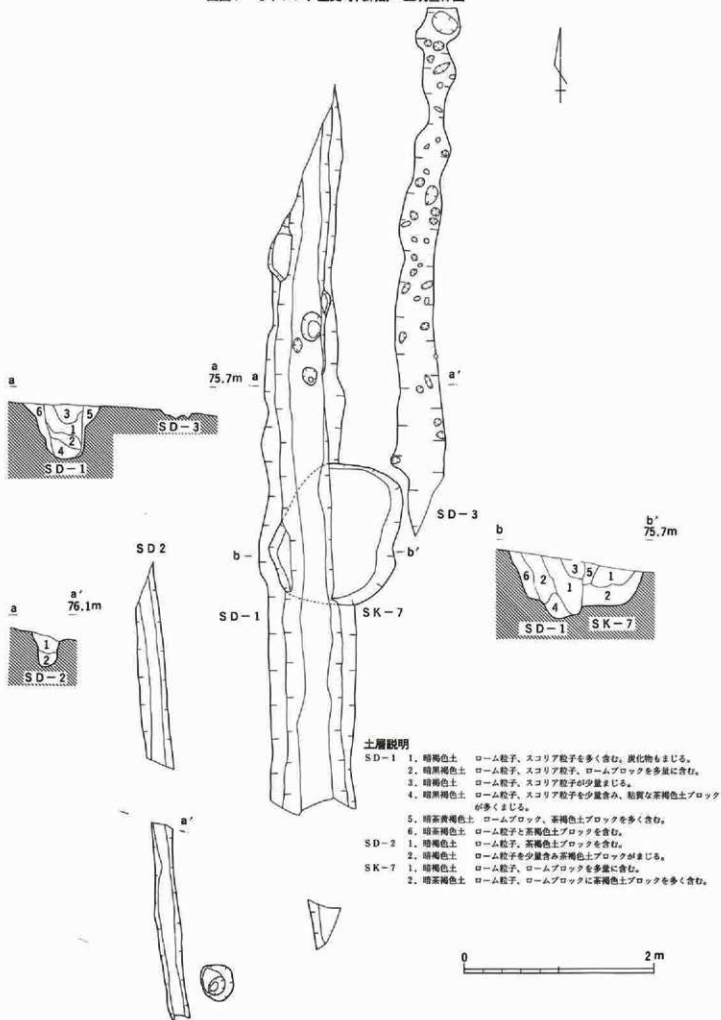
土層説明

- SK-1 1. 暗茶褐色土 大粒なスコリア粒子とローム粒子を少量含む。
2. 暗茶褐色土 ローム粒子、スコリア粒子を多く含む、茶褐色土ブロックがまじる。
- SK-2 1. 茶褐色土 ロームブロックと茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
3. 暗茶褐色土 ローム粒子、スコリア粒子、茶褐色土ブロックを多く含む。
4. 黄茶褐色土 ロームブロック、茶褐色土ブロックを多量に含む。
5. 茶暗褐色土 茶褐色土ブロックを多量に含む、ローム粒子、スコリア粒子がまじる。
- SK-3 1. 暗茶褐色土 茶褐色土ブロックを多く含む。
2. 暗茶褐色土 ローム粒子、スコリア粒子を少量含む茶褐色土ブロックがまじる。
3. 暗茶褐色土 スコリア粒子を多く含む。
4. 黄茶褐色土 茶褐色土ブロック、ロームブロックを含み、スコリア粒子がまじる。
5. 暗茶褐色土 ロームブロックの集中的部分があり、茶褐色土ブロック、スコリア粒子がまじる。
- SK-4 1. 暗茶褐色土 ローム粒子、スコリア粒子を少量含む、茶褐色土ブロックがまじる。
2. 暗茶褐色土 1層よりローム粒子、スコリア粒子が少ない。
3. 黄暗褐色土 ロームブロックと茶褐色土ブロックがまじる。
- SK-5 1. 黄暗褐色土 灰色・黒色、スコリア粒子2~3mmを含み、少量であるが、炭化物がまじる。
2. 黄暗褐色土 灰色・黒色、スコリア粒子の粒はやや大きい3~4mm黄灰白褐色土ブロックが部分的にまじる。
- SK-6 1. 黄暗褐色土 灰色スコリア粒子、径1mm前後のものを含む。
2. 黄暗褐色土 灰色スコリア粒子が少量含まれ、黒色スコリア粒子2~3mmがまじる。

0 2m

・炭化物

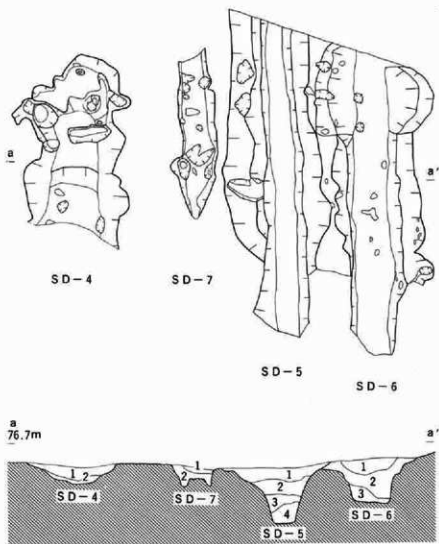
図面7 Cトレンチ歴史時代溝跡・土坑全体図



土層説明

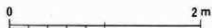
- | | | |
|------|----------|--------------------------------------|
| SD-1 | 1. 暗褐色土 | ローム粒子、スコリア粒子を多く含む。炭化物もまじる。 |
| | 2. 暗黒褐色土 | ローム粒子、スコリア粒子、ロームブロックを多量に含む。 |
| | 3. 暗褐色土 | ローム粒子、スコリア粒子が少量まじる。 |
| | 4. 暗黒褐色土 | ローム粒子、スコリア粒子を少量含む。粘質な茶褐色土ブロックが多くまじる。 |
| | 5. 暗茶褐色土 | ロームブロック、茶褐色土ブロックを多く含む。 |
| | 6. 暗茶褐色土 | ローム粒子と茶褐色土ブロックを含む。 |
| SD-2 | 1. 暗褐色土 | ローム粒子、茶褐色土ブロックを含む。 |
| | 2. 暗褐色土 | ローム粒子を少量含む茶褐色土ブロックがまじる。 |
| SK-7 | 1. 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブロックを多量に含む。 |
| | 2. 暗茶褐色土 | ローム粒子、ロームブロックに茶褐色土ブロックを多く含む。 |

図面8 Bトレンチ歴史時代遺跡平面図

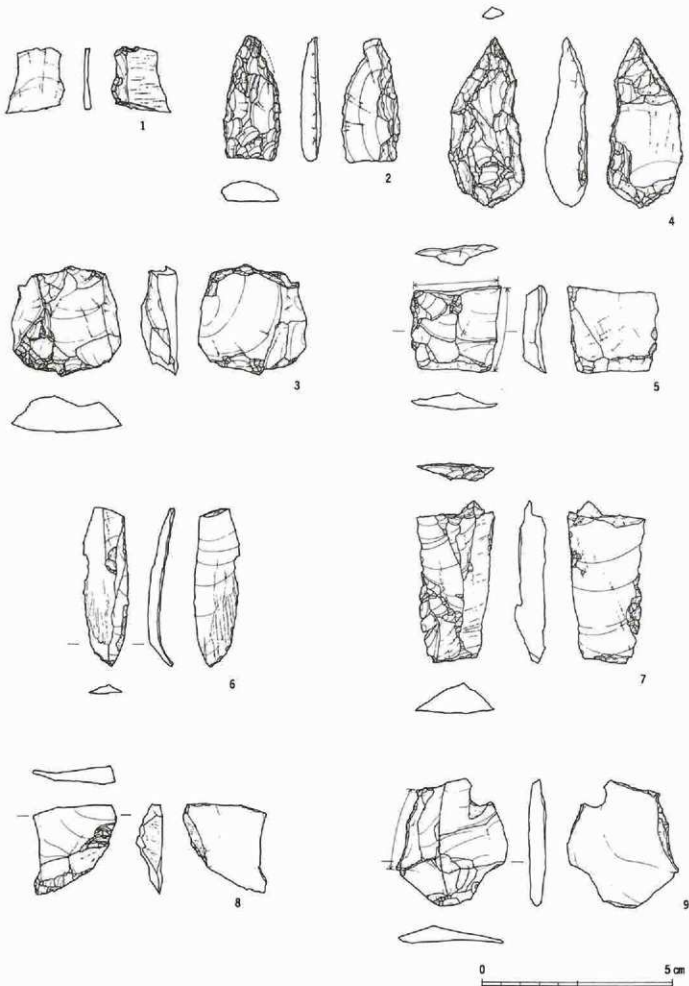


土層説明

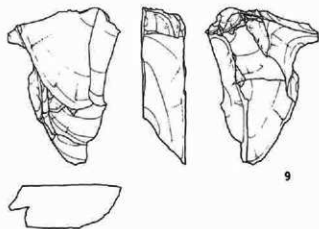
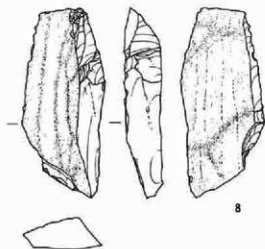
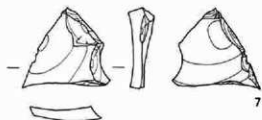
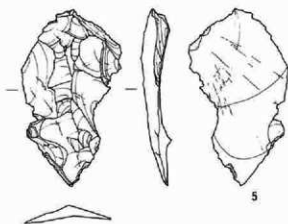
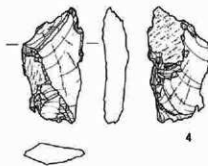
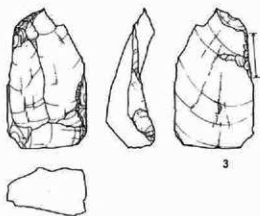
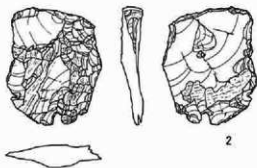
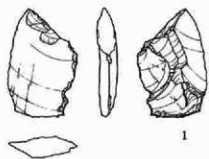
- | | | |
|------|----------|--------------------------------|
| SD-4 | 1. 暗褐色土 | 茶褐色土ブロックを多く含み、ローム粒子が少量まじる。 |
| | 2. 暗褐色土 | ローム粒子、ロームブロックを含む。 |
| SD-5 | 1. 茶暗褐色土 | ロームブロック、粒子、茶褐色土ブロックを多く含む。 |
| | 2. 暗褐色土 | ロームブロック、茶褐色土ブロックがまじる。 |
| | 3. 黒黄褐色土 | ロームブロック粒子、黒色土粒子がまじる。 |
| | 4. 黄褐色土 | ロームブロックを多量に含む。 |
| SD-6 | 1. 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。 |
| | 2. 暗褐色土 | ロームブロックを多く含む。 |
| | 3. 暗黒褐色土 | ローム粒子を少量含み、茶褐色土ブロックと黒色土粒子がまじる。 |
| SD-7 | 1. 暗褐色土 | ロームブロックを多く含む。 |
| | 2. 暗茶褐色土 | 細かいローム粒子と茶褐色土ブロックが多くまじる。 |



図面9 Aトレンチ先土器時代出土遺物

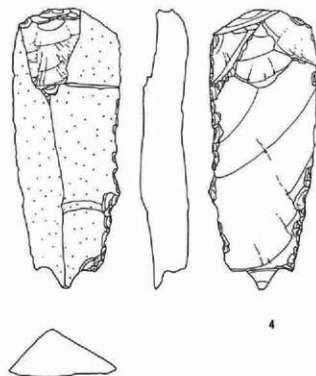
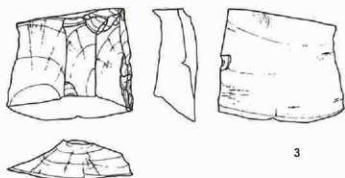
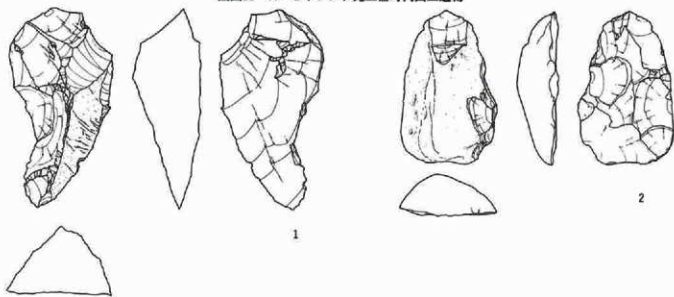


図面10 A トレンチ先土器時代出土遺物



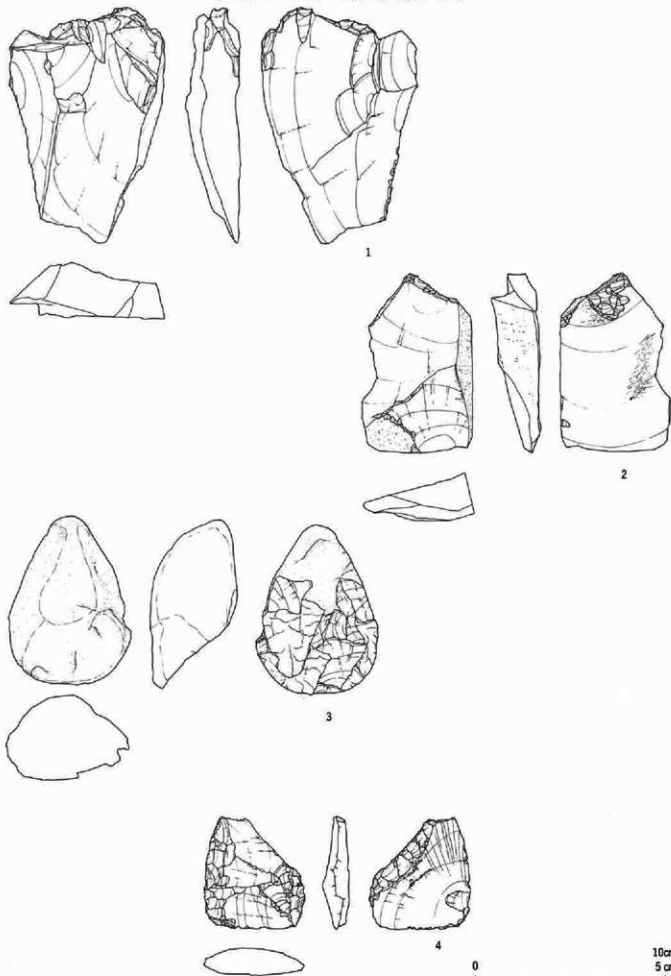
0 5 cm

図面11 A・Bトレンチ先土器時代出土遺物



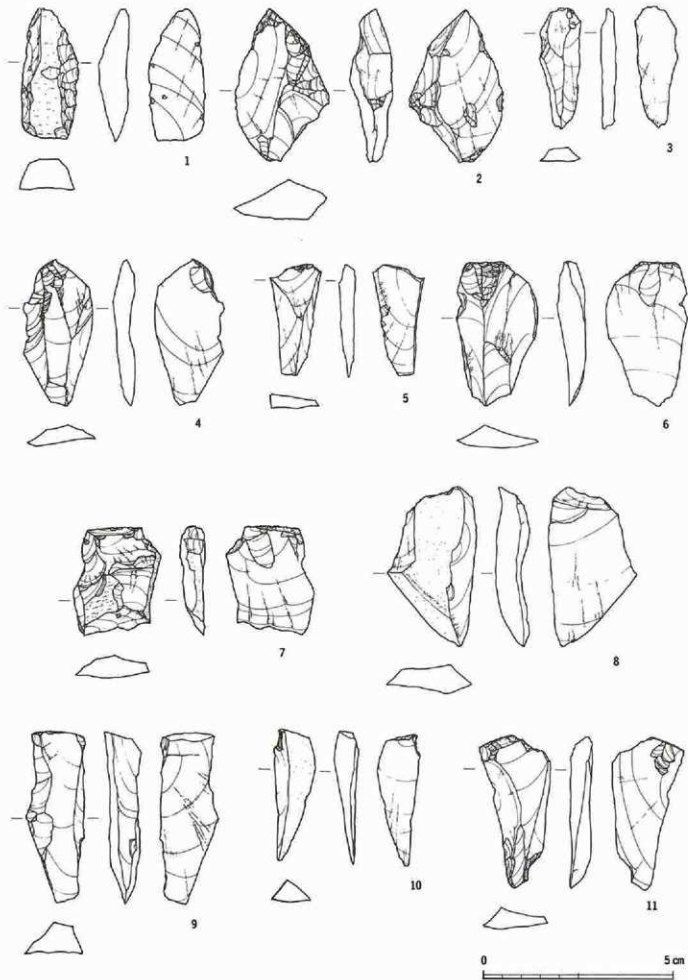
0 10cm (2)
5 cm

図面12 B・Cトレンチ先土器時代出土遺物

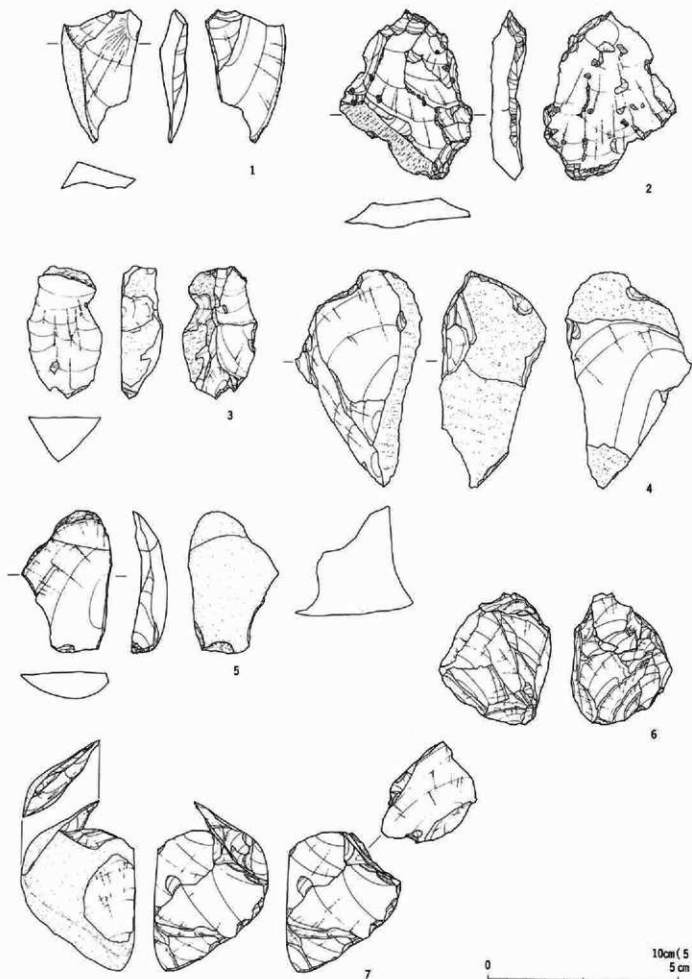


10cm(3)
5cm

図面13 Dトレンチ先土器時代出土遺物

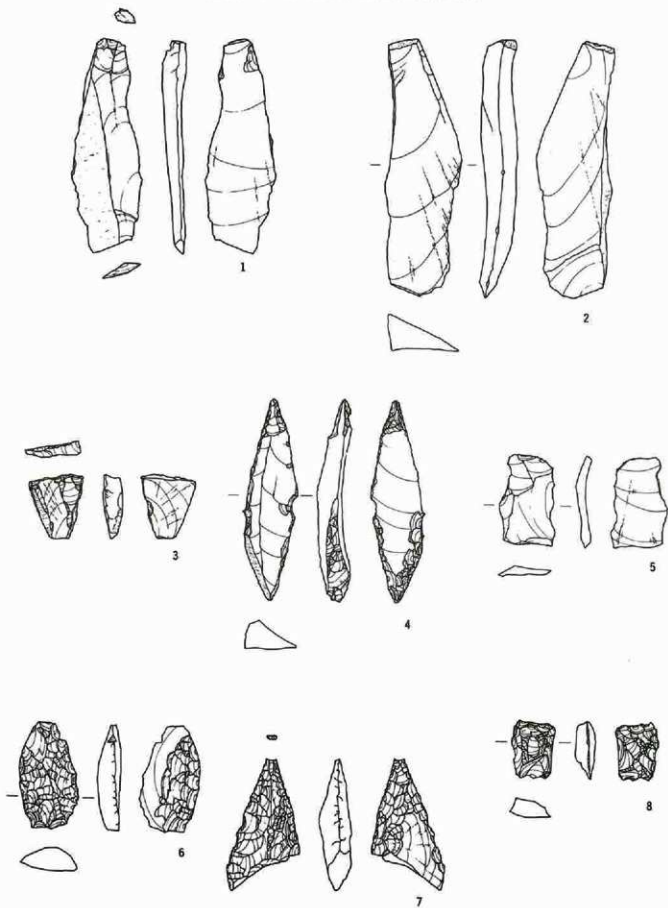


図面14 Dトレンチ先土器時代出土遺物



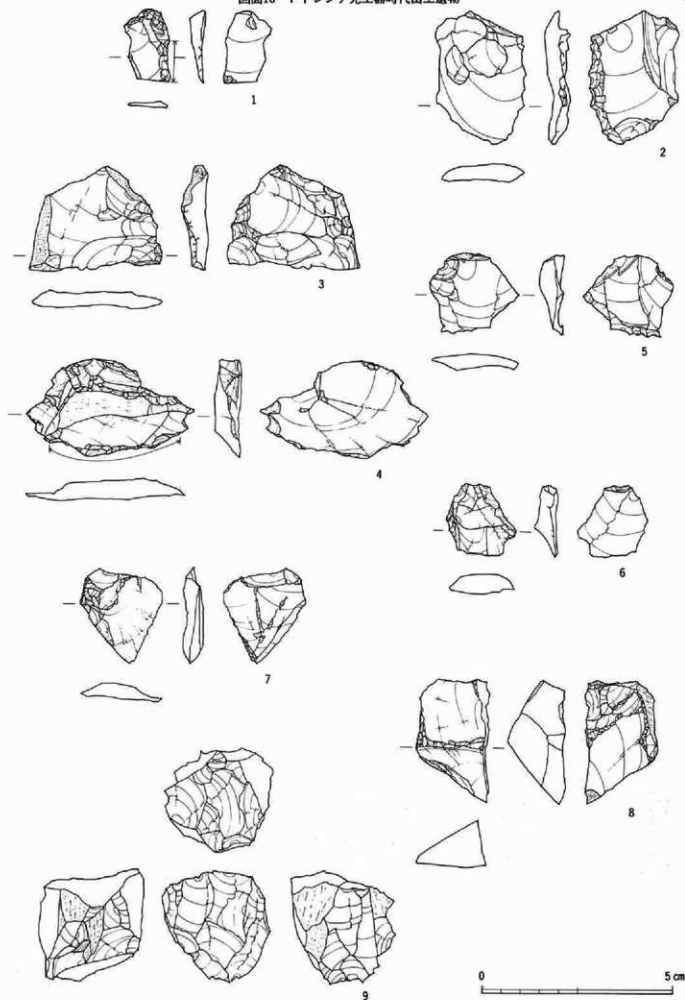
10cm (5・6・7)
5cm

図面15 D・E・Fトレンチ先土器時代出土遺物

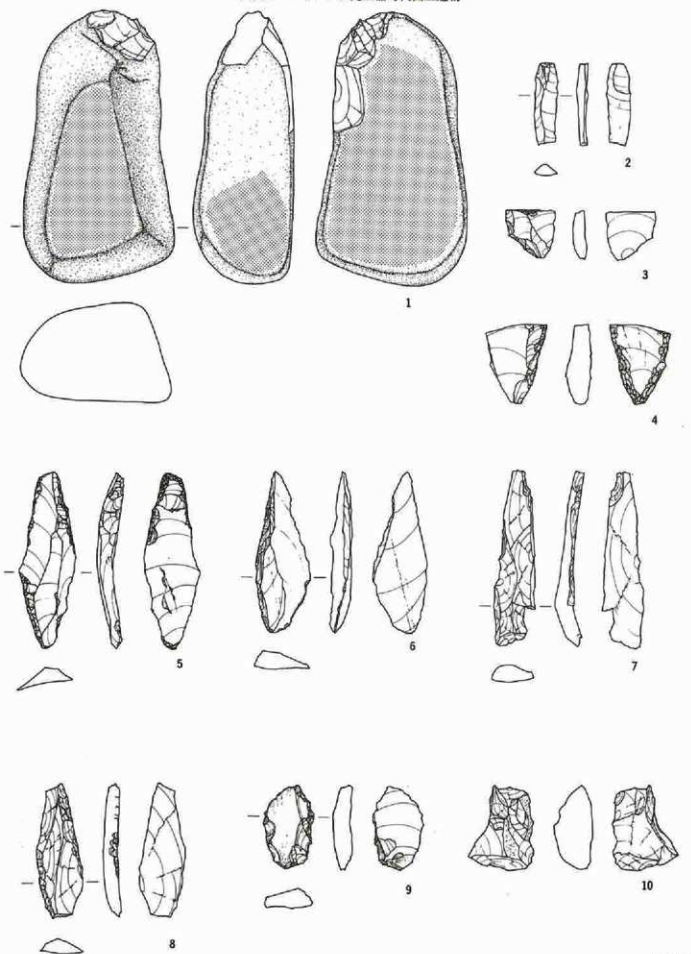


0 5 cm

図面16 Fトレンチ先土器時代出土遺物

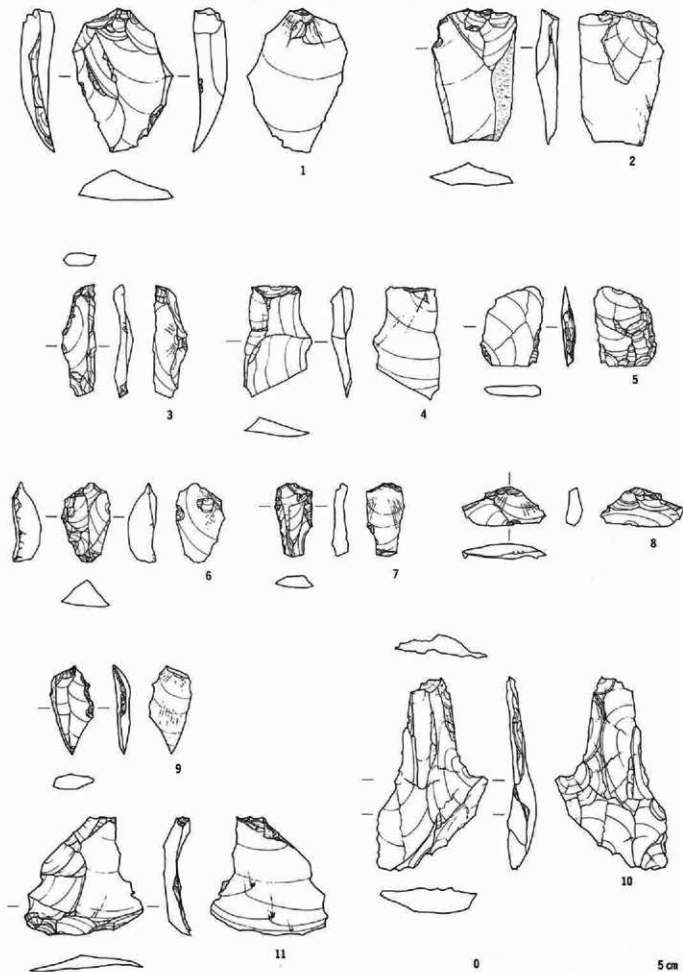


図面17 F トレンチ先土器時代出土遺物

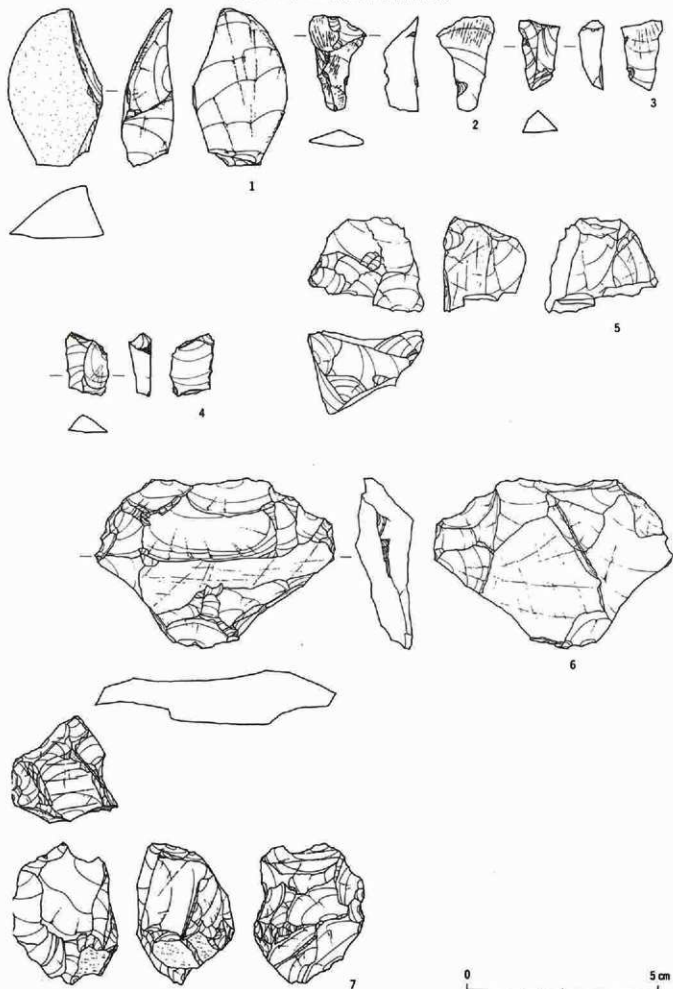


0 10cm (1)
5 cm

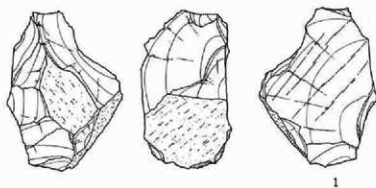
図面18 Fトレンチ先土器時代出土遺物



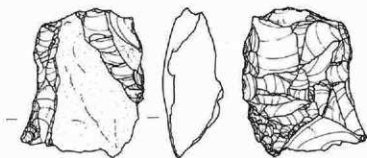
図面19 Fトレンチ先土器時代出土遺物



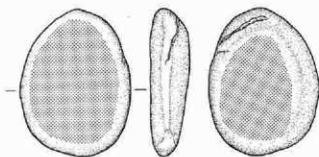
図面20 F トレンチ先土器時代出土遺物



1



2



3



图 版

図版1 調査地区近景



1 調査地区近景 (北から)



2. 調査地区近景 (南から)



3. 調査地区近景 (東から)

図版2 発掘状況、先土器時代調査トレンチ



1. 発掘作業風景



2. 発掘作業風景



3. Aトレンチ先土器時代遺物出土状態(南から)

図版3 先土器時代調査トレンチ



1. Dトレンチ先土器時代遺物出土状態 (東から)



2. E₂トレンチ先土器時代遺物出土状態 (南から)



3. E₃トレンチ先土器時代遺物出土状態 (北から)

図版4 先土器時代調査トレンチ



1. Fトレンチ先土器時代ユニット1全景 (西から)



2. Fトレンチ先土器時代ユニット2全景 (南から)



3. Fトレンチ先土器時代ユニット2全景 (北から)



1. Dトレンチ先土器時代SK 5土坑全景 (南から)



2. Dトレンチ先土器時代SK 5土坑東西土層断面 (南から)



3. Dトレンチ先土器時代SK 6土坑全景 (南から)

図版6 先土器時代・縄文時代調査トレンチ



1. Dトレンチ先土器時代炭化物集中地点



2. Aトレンチ縄文時代全景（南から）



3. Aトレンチ縄文時代SK3土坑全景（東から）



1. Aトレンチ縄文時代SK 3土坑東西土層断面（北から）



2. Aトレンチ縄文時代SK 2土坑全景（北から）



3. Aトレンチ縄文時代SK 2土坑東西土層断面（北から）



1. Aトレンチ縄文時代SK1土坑全景(東から)



2. Aトレンチ縄文時代SK1土坑東西土層断面(北から)



3. E₂トレンチ縄文時代全景(北から)

図版9 縄文時代・歴史時代調査トレンチ



1. Fトレンチ縄文時代全景 (南から)



2. Bトレンチ歴史時代SD4・5・6・7清跡全景 (北から)



3. Bトレンチ歴史時代SD4清跡南北土層断面 (東から)



1. Bトレンチ歴史時代SD5溝跡南北土層断面(東から)



2. Bトレンチ歴史時代SD6溝跡南北土層断面(東から)



3. Bトレンチ歴史時代SD7溝跡南北土層断面(東から)



1. Cトレンチ歴史時代SD1・2・3溝跡・SK7土坑全景（南から）



2. Cトレンチ歴史時代SD1溝跡・SK7土坑東西土層断面（南から）



3. Cトレンチ歴史時代SD3溝跡・東西土層断面（南から）

図版12 A トレンテ先土器時代出土遺物



9-1



9-2



9-3



9-4



9-5



9-6



9-7



9-8



9-9



10-1



10-2



10-3



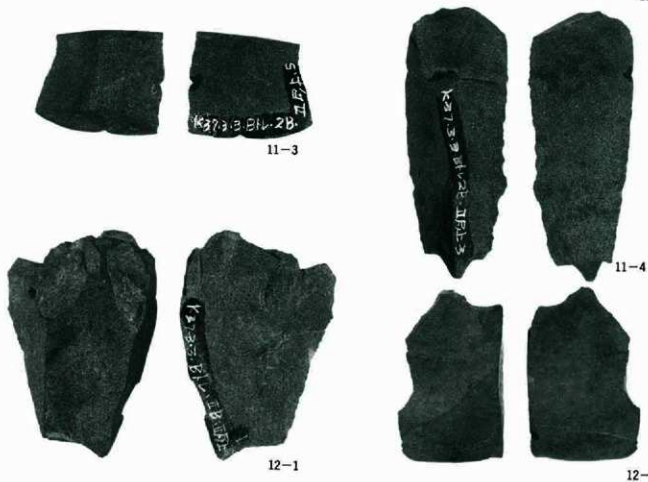
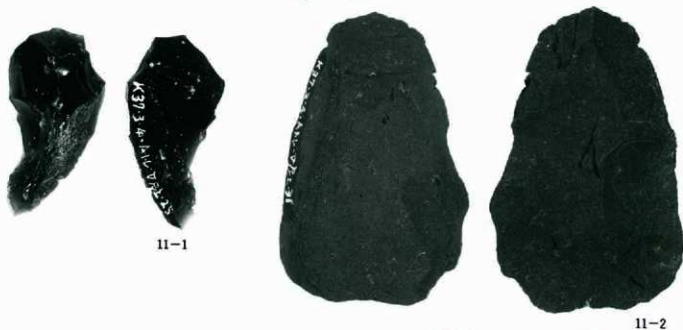
10-4



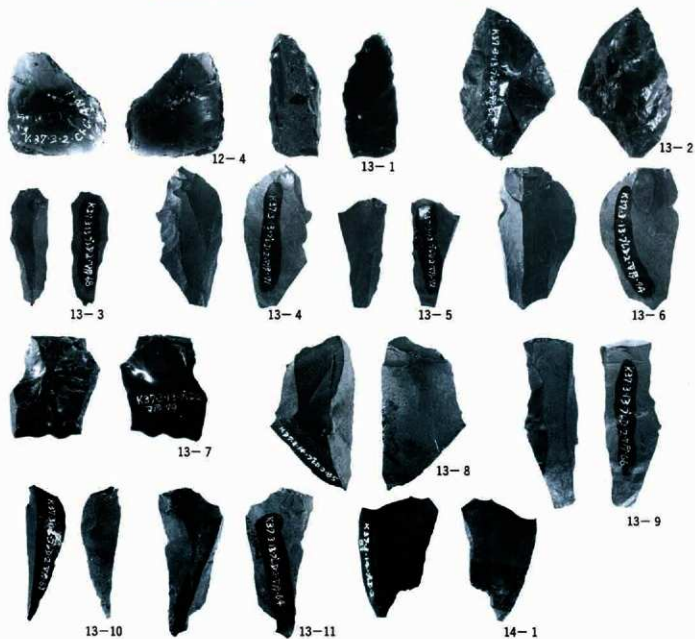
10-5



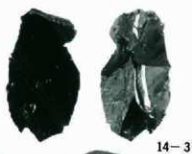
10-6

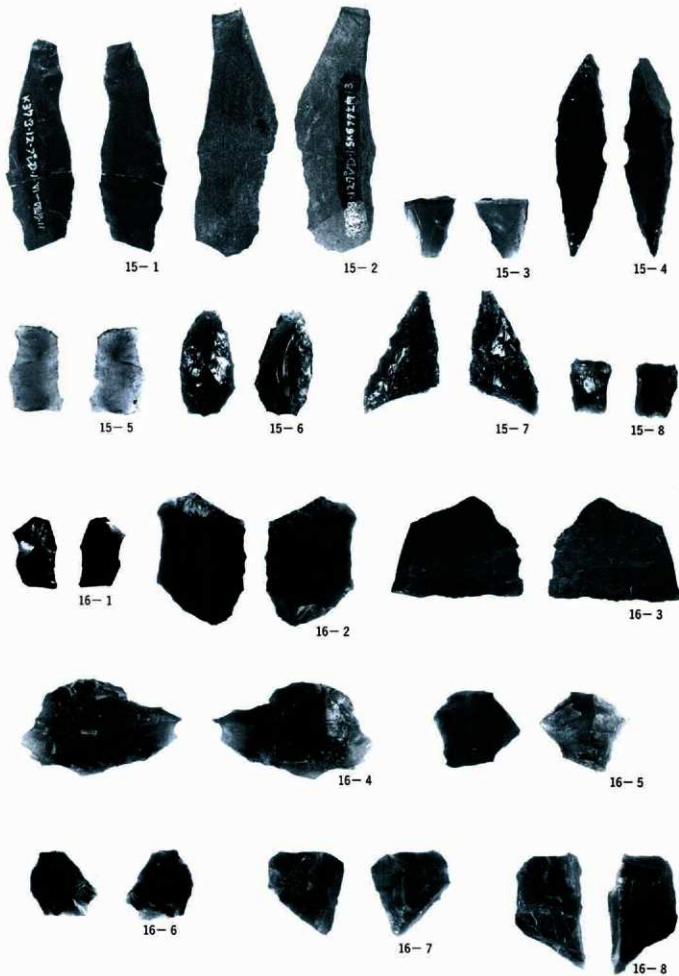


図版14 B・C・Dトレンチ先土器時代出土遺物



図版15 Dトレンチ先土器時代出土遺物





図版17 F トレンチ先土器時代出土遺物



16-9



17-1



17-2



17-3



17-4



17-5



17-6



17-7



17-8



17-9



17-10



18-1



18-2



18-3



18-4

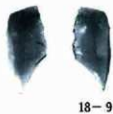


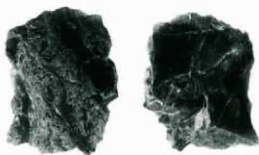
18-5



18-6

図版18 Fトレンチ先土器時代出土遺物





20-2



20-3

国分寺市文化財調査報告刊行目録

- 第 1 集 恋ヶ窪遺跡発掘調査概報 (昭和40年3月刊) 国分寺市文化財専門委員会編
- 第 2 集 恋ヶ窪堂址調査報告 (刊行年不明) 泉町庵寺址遺跡調査団編著
- 第 3 集 武蔵国分寺図譜 (昭和41年12月刊) 滝口 宏編著
- 第 4 集 武蔵国分尼寺 (昭和49年4月刊) 滝口 宏著
- 第 5 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 I (昭和51年6月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 6 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 II (昭和51年7月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 7 集 武蔵国分寺遺跡調査会年報 I (年報1974) (昭和54年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 8 集 恋ヶ窪遺跡調査報告 I (昭和54年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第 9 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 III (昭和52年11月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 10 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 IV (昭和55年2月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 11 集 恋ヶ窪遺跡調査報告 II (昭和55年10月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第 12 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 V (昭和56年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 13 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 VI (昭和57年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 14 集 恋ヶ窪遺跡調査報告 III (昭和57年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第 15 集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 VII (昭和57年9月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 16 集 武蔵国分寺遺跡調査会年報 II (第1分冊 昭和59年3月刊 第2分冊 昭和57年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 17 集 花沢東遺跡 (昭和59年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第 18 集 武蔵国分寺跡遺物整理報告書 —— 昭和三十一・昭和三十三年度 —— (昭和60年4月刊) 日本考古学協会仏教遺跡調査特別委員会編著
- 第 19 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 VIII (昭和60年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 20 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 IX (昭和60年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第 21 集 多摩坂遺跡 (昭和55年4月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第 22 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X (昭和62年7月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 23 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X I (昭和62年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 24 集 恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報 I (昭和62年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 25 集 恋ヶ窪遺跡調査報告 IV (昭和63年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 26 集 武蔵国分寺跡調査報告 —— 昭和三十九年～四十四年度 —— (昭和62年3月刊) 滝口 宏編著
- 第 27 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X II (昭和63年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 28 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X III (昭和63年9月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 29 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X IV (平成元年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 30 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X V (平成元年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 31 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VI (平成2年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第 32 集 国分寺市の民俗 —— (平成3年3月刊) 国分寺市民俗調査団編著
- 第 33 集 武蔵国分寺跡発掘調査概報 X VII (平成3年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著

国分寺市文化財調査報告 第34集

国分寺市 No.37遺跡調査概報 I

—都道17号線整備工事に伴う発掘調査—

発行日 第一刷 平成3年3月20日
第二刷 平成4年2月29日

編著者 国分寺市遺跡調査団
© (団長 滝口 宏)

発行所 国分寺市遺跡調査会
〒185 国分寺市戸倉1-6-1
TEL 0423-25-0111(代表)
東京都国分寺市教育委員会

印刷所 コロニー東村山印刷所
